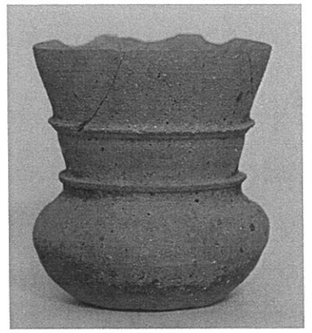
平成２３年度「ひろしまの遺跡を語る」

古 代 の 東 ア ジ ア と ひ ろ し ま

- 白村江の戦いと寺町廃寺（三次市） -



浄福寺２号遺跡（東広島市）
の陶質土器
（広島県立埋蔵文化財センター蔵）





寺町廃寺復元模型（広島県立歴史博物館蔵）



寺町廃寺の軒丸瓦
（広島県立歴史民俗資料館蔵）

日　時　平成 24 年 1 月 21 日 (土)　10：00～16：00

会　場　広島県民文化センター　多目的ホール

主　催　財団法人広島県教育事業団
後　援　広島県教育委員会，広島市教育委員会，ＮＨＫ広島放送局，中国新聞社

≪日程≫　　【資料番号】

10：00～10：10　開 会 行 事

10：10～10：40　研 究 発 表「古代ひろしまの渡来系遺物」・・・・・・・・【１～６】

（財）広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室長　伊藤 実

10：40～12：00　基 調 講 演 Ⅰ「朝鮮半島，吉備，そして備後の寺々」・・・・【７～20】

岡山理科大学大学院 教授　亀田 修一さん

12：00～13：00　休　　憩

※出土品見学は 9：30～16：00

13：00～14：20　基 調 講 演 Ⅱ「百済僧弘済の三谷寺をさぐる」・・・・・・・【21～28】

比治山大学 名誉教授　松下 正司さん

14：20～14：40　休　　憩

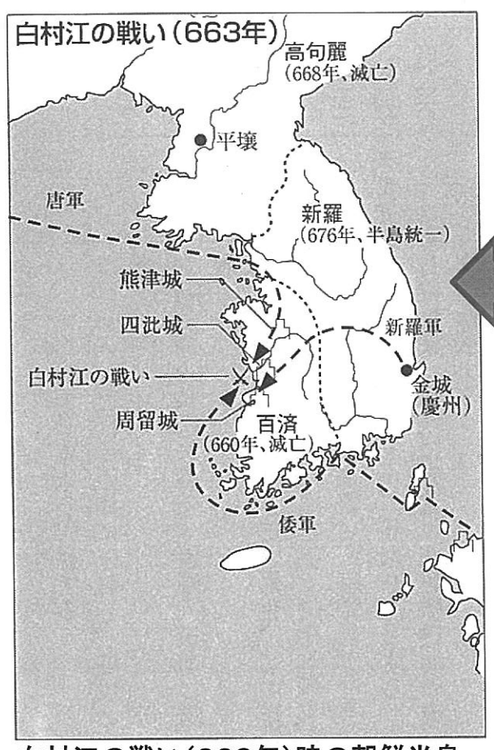
14：40～15：50　シンポジウム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【29】

コーディネーター　広島大学大学院 教授　古瀬清秀さん

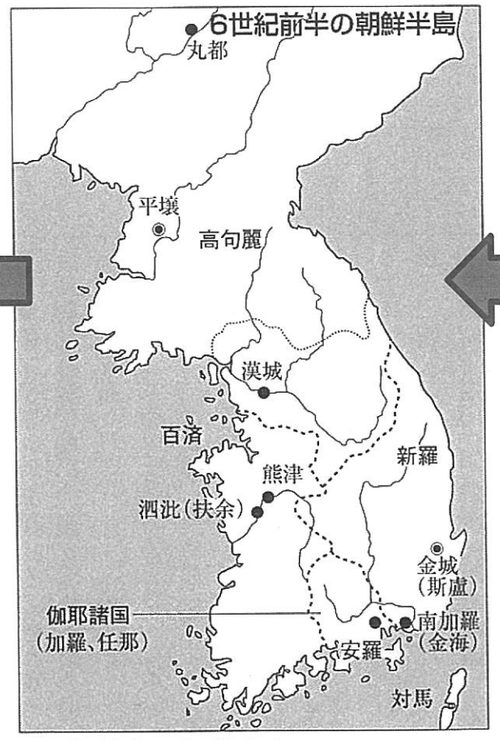
パネラー　松下正司さん，亀田修一さん，伊藤実

15：50～16：00　閉 会 行 事

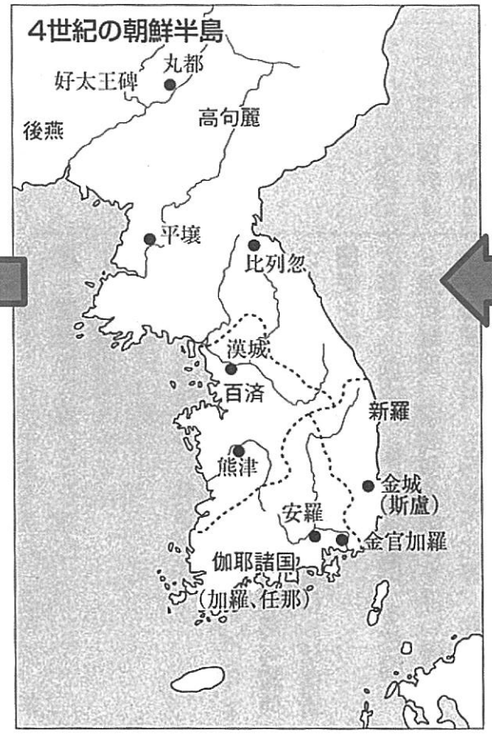
参考資料（関連年表と白村江の戦い関係位置図）　・・・・【表紙裏】



白村江の戦い（663年）時の朝鮮半島



6世紀前半の朝鮮半島



4世紀の朝鮮半島



紀元前1世紀～3世紀の朝鮮半島

図と年表は、新人物往来社『歴史読本（第五十一巻三号）特集古代日朝関係史』（2006年2月号）掲載のものを引用しました。

古代日朝交渉年表（瀧音能之編）

西暦	和暦	事項
四六四	雄略 8	新羅王が任那王に使いを出し、高句麗に対抗するため日本府の援軍を求める
五一二	継体 6	百済、任那の四県を勢力下に収める
五一三	7	百済、五経博士段楊爾を倭に送る
五二七	21	筑紫国造磐井、新羅と通じて反乱
五二九	23	倭軍、安羅で百済・新羅の任那進出を阻止しようとしたが失敗
五三八	宣化 3	百済の聖明王、倭に仏像と経論とを送る
五四一	欽明 2	百済、伽羅諸国の王と任那復興を協議
五四八	9	倭、百済に兵を送り築城を助ける
五五四	15	百済、五経・易・暦・医博士、および僧らを派遣
		倭・百済両軍、新羅と戦う。百済の聖明王戦死
五六二	23	新羅、大伽羅を滅ぼし任那併合
五七五	敏達 4	新羅、任那四邑の調（任那の調）を進める
五八三	12	任那復興のため、火葦北国造の子・日羅を百済から召還
五八八	崇峻 元	百済、仏舎利・僧・造寺工などを送る
		善信尼ら百済に留学
五九一	4	倭、任那復興のため、軍二万を筑紫に派遣
五九五	推古 3	5月 高句麗僧・恵慈、百済僧・恵聡氏ら倭に派遣
六〇〇	8	2月 新羅、任那を攻める。倭、兵万余を送り、任那を救う
六〇一	9	3月 日本、高句麗・百済へ使いを送る
		11月 日本、新羅への攻略を計画（六〇三年に計画中止）
六〇二	10	10月 百済僧・観勒、暦・天文地理・遁甲方術等の書を日本にもたらす
六〇五	13	4月 高句麗、造仏用の黄金を日本にもたらす
六一〇	18	3月 高句麗僧・曇徴、彩色・紙・墨・碾磑（水力で動かす石臼）の製法を日本に伝える
六一三	21	百済人・摩之、伎楽舞を日本に伝える
六一五	23	7月 百済使、遣唐使犬上御田鍬に従って来朝
六一八	26	8月 高句麗、方物を進め、隋の滅亡を伝える
六二三	31	7月 新羅、任那を討つ。日本、任那に派兵
六三一	舒明 3	3月 百済王子・豊璋、質として日本に来朝
六四〇	12	10月 南淵請安、高向玄理ら唐より帰国。百済使・新羅使、随伴して来朝
六四三	皇極 元	4月 内乱で追放された百済王族ら来日
六四六	大化 2	9月 任那の調の貢進を廃止
六四七	3	新羅王子・金春秋、質として来朝
六五一	白雉 2	新羅使、筑紫に来るが、唐服着用を責めて追い返す
六六〇	斉明 6	7月 百済、新羅・唐の攻撃により滅亡
六六二	天智 元	5月 余豊璋らを百済に送り、王位を継がせる
六六三	2	8月 日本・百済軍、新羅・唐軍と白村江に戦い大敗【白村江の戦い】
		9月 日本軍、百済遺民と帰国

研究発表（10:10～10：40）

「古代ひろしまの渡来系遺物」

（財）広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室長　伊藤　実

1　何をもって渡来系遺物というか

（１）渡来か？帰化か？

●1950～60 年代は「帰化人」の用語が広く使われた。1975 年以降の教科書は帰化人→渡来人と書き換える。

●「帰化」「帰化人」の用語は、国家・国民の意識を前提に、政治的な意味合いも含むため，律令国家成立以前の古代においては，物理的な移動を示す「渡来」「渡来人」の用語を使うことが定着。

（２）渡来系遺物とは？

●稲作の伝来（弥生時代の開始）以降，日本の文化はほとんど渡来系。

●大陸から渡来した人たちの足跡を探す手がかりは，渡来して日本に定着しなかったモノや定着する以前の大陸風の意匠や使用法などを残している遺物の探索である。

●一般に古代の渡来人という場合、渡来人１世・２世あたりまでを意味し，２世以降は渡来人の子孫などとしたりするが，厳密にはわからない。彼らの使ったモノや技術、文化や，これに影響を受けて成立したと判断される古代の出土品が，渡来系遺物といわれているものである。

2　広島県内で発見された弥生時代から奈良時代の渡来系遺物や遺構

（１）弥生時代・・・・・・・・朝鮮半島特有の孔列文土器，鋳造鉄器，骨鏃など
（２）古墳時代・・・・・・・・須恵器の起源となった陶質土器，鍛冶具，オンドル状カマド
（３）飛鳥・奈良時代・・・・・唐三彩，古代の文献に記された朝鮮式山城など

3　渡来の時期と波

（１）４世紀末～５世紀前半・・・・・・朝鮮半島で高句麗・百済・新羅・伽耶諸国の抗争
（日本列島に渡来人のもたらした影響）・・・須恵器やカマドなど伝来
（２）５世紀後半～６世紀前半・・・・・朝鮮半島で高句麗の南下政策により百済を圧迫
（日本列島に渡来人のもたらした影響）・・・横穴式石室・須恵器の普及
（３）７世紀後半・・・・・・・・・・・朝鮮半島で唐・新羅連合軍と倭・百済の戦い
（日本列島に渡来人のもたらした影響）・・・古代寺院や仏教文化の広まり

4　三谷郡の大領（郡長）の祖先たちはなぜ海を渡ったか？

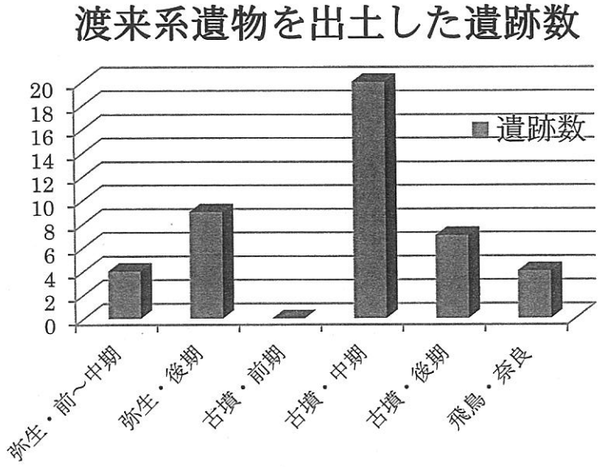
（１）三次の古墳群と渡来系遺物

●渡来の第１・２波（５世紀）の時期と 4000 基の古墳が築かれる契機がほぼ同じ。

●古墳から陶質土器や武器・武具類，鍛冶具などが出土，オンドル状遺構の出現。

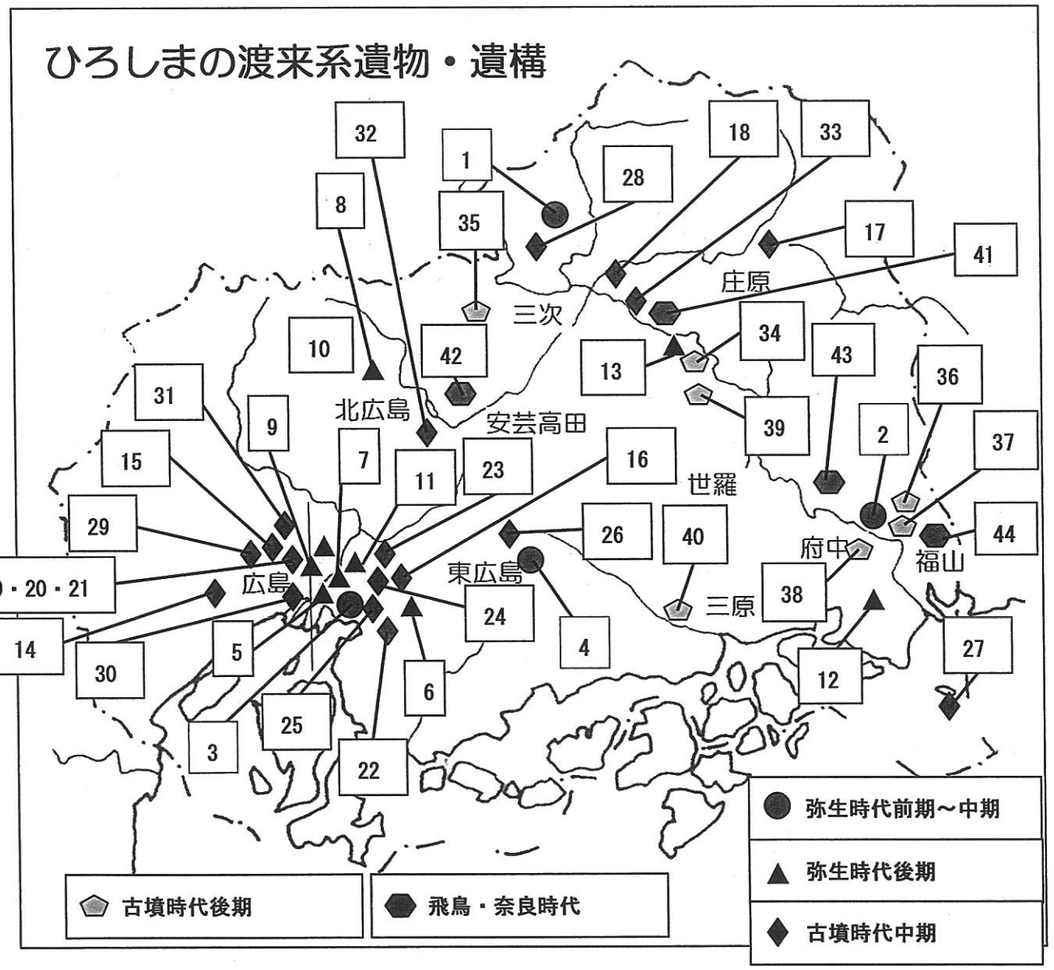
（２）白村江の戦い前後の渡来系遺物

●梅の木古墳（三次市吉舎町）から，須恵器とともに陶質土器（朝鮮半島南部から持ち帰った可能性もある）が出土。



時代	遺跡数
弥生・前～中期	4
弥生・後期	9
古墳・前期	0
古墳・中期	20
古墳・後期	7
飛鳥・奈良	4

第１図表　広島県内の渡来系遺物等出土遺跡数



第２図表　広島県内の渡来系遺物等出土遺跡の時期別分布図
（番号は次ページの一覧の番号と一致します）

第3図表　広島県内出土の渡来系遺物・遺構一覧

番号	時代	遺跡名	所在地	渡来系遺物・遺構	文献
1	弥生・前	建釜遺跡	庄原市高野町高暮	孔列文土器	高野町『高野町史』2005年
2	弥生・前	大地(おおじ)2号遺跡	福山市新市町常	孔列文土器	未報告(2005～2006年度福山市埋蔵文化財調査団調査)
3	弥生・前～中	中山遺跡	広島市東区中山東	鋳造鉄斧	野島永『弥生時代における初期鉄器の舶載時期とその流通構造の解明』2008年
4	弥生・中	西本6号遺跡	東広島市高屋町大畠・杵原	鋳造鉄斧(SB8・10b・11b)	(財)広島県埋文センター『西本6号遺跡』1997年
5	弥生・後	西山貝塚	広島市東区戸坂・牛田早稲田	骨鏃(三稜形)	松崎寿和『広島県史(考古編)』1979年
6	弥生・後	成岡A地点遺跡(3号墓)	広島市安芸区中野東	骨鏃形鉄鏃	(財)広島市文化財団『成岡A地点遺跡』2001年
7	弥生・後	西願寺遺跡D地点	広島市安佐北区口田	鋳造鉄斧・曲刃鎌・板状鉄斧ほか	広島県教委『西願寺遺跡群』1974年
8	弥生・後	京野遺跡	北広島町今田	鋳造鉄斧(SB25)	(財)広島県埋文センター『千代田流通団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅱ)』1998年
9	弥生・後	大谷遺跡	広島市安佐南区祇園	鋳造鉄斧(A地点4号住居跡)	広島市教委『広島経済大学構内遺跡群発掘調査報告』1984年
10	弥生・後	大町七九谷遺跡	広島市安佐南区大町	鋳造鉄斧(A地点SH7，B地点SH4)・素環頭刀子(B地点墳墓群)	(財)広島市文化財団『大町七九谷遺跡群』1999年
11	弥生・後	梨ヶ谷B地点	広島市安佐北区口田	曲刃鎌・板状鉄斧ほか	(財)広島市歴史科学教育事業団『梨ヶ谷遺跡発掘調査報告』1998年
12	弥生・後	本谷遺跡	福山市津之郷町	貨泉	福山市教委『本谷遺跡発掘調査概報』1973年
13	弥生・後	油免遺跡	三次市三良坂町灰塚	鉄素材(SB43)・大壁建物？(SB15)	(財)広島県埋文センター『灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅳ)-油免遺跡の調査-』2003年
14	古墳・中	城ノ下第1号古墳	広島市佐伯区五日市	金銅製垂飾	(財)広島市歴史科学教育事業団『城ノ下A地点遺跡発掘調査報告』1991年
15	古墳・中	空長古墳群	広島市安佐南区山本	竪穴系横口式石槨・鉄鏃	広島市教育委員会『空長古墳群発掘調査報告書』1978年
16	古墳・中	地蔵堂山第1号古墳	広島市安佐北区落合	鋳造鉄斧	広島県教委『高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』1977年
17	古墳・中	田尻山第14号古墳	庄原市山内町	陶質土器(縄蓆文)	広島県教委『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(1)』1978年
18	古墳・中	四拾貫小原第1号古墳	三次市四拾貫町	陶質土器(縄蓆文)	新谷武夫「安芸・備後の古式須恵器」『古文化談叢5』1978年
19	古墳・中	池の内第2号古墳	広島市安佐南区長束西	又鍬(馬鍬)	広島市教委『池の内遺跡発掘調査報告』1985年
20	古墳・中	池の内第3号古墳	広島市安佐南区長束西	陶質土器(把手付短頸壺)	広島市教委『池の内遺跡発掘調査報告』1985年
21	古墳・中	池の内第1号主体(甕棺墓)	広島市安佐南区長束西	陶質土器(甕)	広島市教委『池の内遺跡発掘調査報告』1985年
22	古墳・中	砂走遺跡	広島市安芸区中野	陶質土器(把手付短頸壺)	新谷武夫「台付把手壺考」『考古論集-潮見浩先生退官記念論文集-』1993年
23	古墳・中	水落古墳	広島市安佐北区可部	陶質土器(高杯)	安間拓巳「広島県出土の古式須恵器」『古文化談叢第65号-(2)』2010年
24	古墳・中	大久保古墳	広島市安佐北区口田南	陶質土器？(甕・高杯)	(財)広島県埋文センター『山陽自動車道に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅳ)』1987年
25	古墳・中	大明地第3号古墳及び周辺	広島市安佐北区口田	陶質土器？(壺)	(財)広島県埋文センター『山陽自動車道に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(Ⅳ)』1987年
26	古墳・中	浄福寺2号遺跡	東広島市高屋町高美ヶ丘	陶質土器(小型壺)・土師器(多孔底甑・SB50,SX17)	(財)広島県埋文センター『東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ』1993年
27	古墳・中	宇治島北の浜遺跡	福山市走島町宇治島	陶質土器？(縄蓆文)	川越哲志「福山市宇治島の考古資料(1)」『内海文化研究紀要第11号』1983年
28	古墳・中	曲2号古墳	庄原市口和町金田	鍛冶具(鞴)・多角形袋式鉄矛	(財)広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(16)曲第2～5号古墳』2011年
29	古墳・中	寺山第3号古墳	広島市安佐南区山本	鎹，鍛冶具(鉄鎚)	(財)広島市歴史科学教育事業団『寺山遺跡発掘調査報告』1997年
30	古墳・中	権地古墳	広島市安佐南区長束西	鉄製鋸(ヤス)	広島市教育委員会『九郎杖遺跡・権地遺跡発掘調査報告』1984年
31	古墳・中	三王原古墳	広島市安佐南区祇園	金環，鍛冶具(鉄鎚)	中田昭「広島市祇園町三王原古墳について」『芸備第1集』1973年
32	古墳・中	新宮遺跡群	安芸高田市八千代町勝田	鳥形土器(土師器)	八千代町教委『新宮遺跡群発掘調査報告書』2000年
33	古墳・中	三重1号遺跡	三次市四拾貫町	オンドル状遺構(L字状カマド)	(財)広島県教育事業団『(平成21年度)中国横断自動車道尾道松江線建設に係る備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会-資料-』2010年
34	古墳・後	油免遺跡	三次市三良坂町灰塚	オンドル？状遺構(石蓋壁溝)	(財)広島県埋文センター『灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅳ)-油免遺跡の調査-』2003年
35	古墳・後	上野部古墳	安芸高田市高宮町野部	鍛冶具(鉄鋏)	未報告((広島県立歴史民俗資料館蔵)
36	古墳・後	大迫古墳(金環塚)	福山市駅家町	金環	府中高校地歴部『古代吉備品治国の古墳について』1967年
37	古墳・後	稔松第2号古墳(駅家住宅団地)	福山市駅家町	指輪	県教委『県営駅家住宅団地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告』1976年
38	古墳・後	栗柄町内の古墳	府中市栗柄町	鉄鋌	広島県立歴史民俗資料館『くらしと道の歴史-中国山地の鉄・塩・銀の道-』1999年
39	古墳・後	梅の木古墳	三次市吉舎町敷地	陶質土器(小型蓋付壺・有蓋高杯の蓋など)	未報告(広島県立歴史民俗資料館蔵)
40	古墳・後	土肥谷古墳	三原市本郷町本郷	鶏冠頭大刀	新谷武夫「環状柄頭研究序説」『考古論集-慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集-』1977年
41	飛鳥・奈良	寺町廃寺	三次市向江田町	唐三彩水注	三次市教委『備後寺町廃寺－推定三谷寺跡第2次発掘調査概報－』1981年
42	飛鳥・奈良	明官地廃寺	安芸高田市吉田町中馬	銅製指輪	吉田町教育委員会『明官地廃寺跡-試掘調査概要-』1985年
43	飛鳥・奈良	常城	府中市本山町	朝鮮式山城？	『続日本紀』に記載(遺跡は未確認)
44	飛鳥・奈良	茨城	福山市千田町・蔵王町	朝鮮式山城？	『続日本紀』に記載(遺跡は未確認)

時代表示の目やす

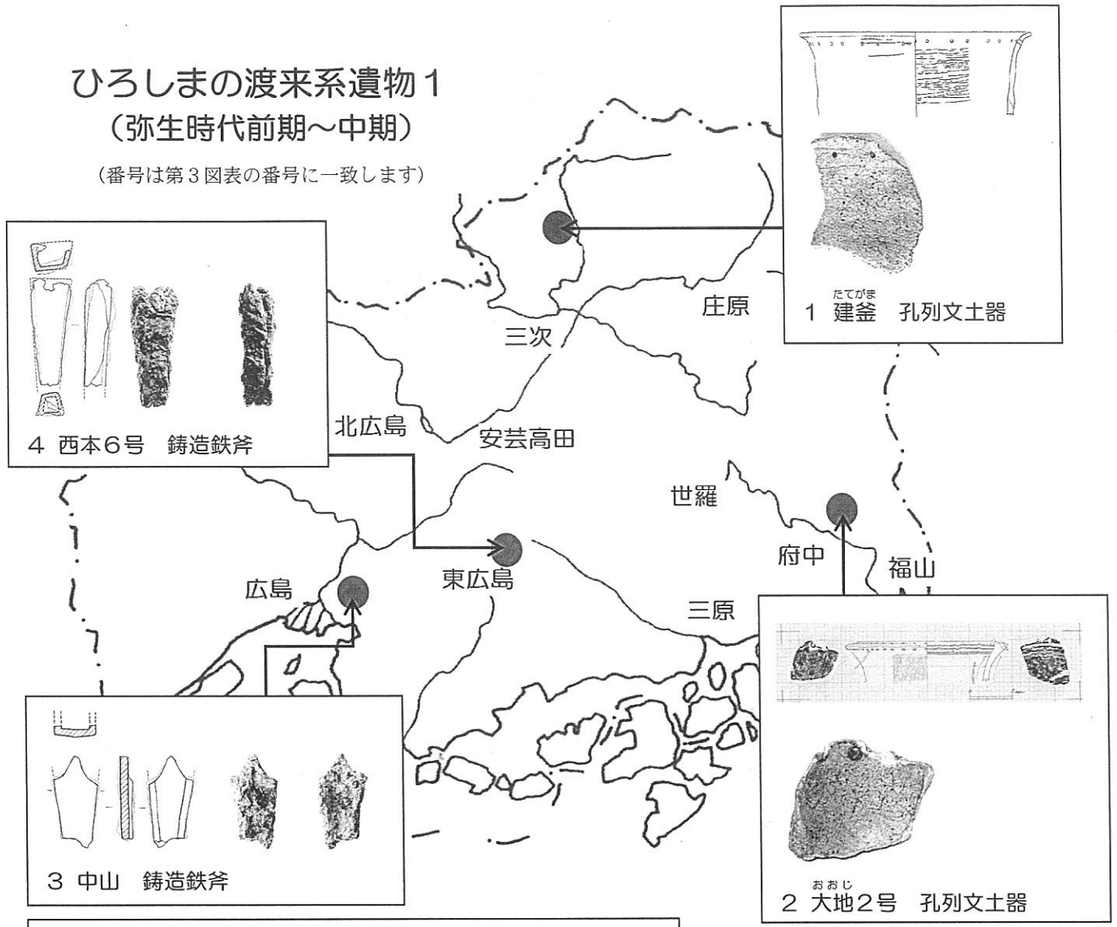
弥生・前(弥生時代前期・BC5～4世紀)，弥生・前～中(弥生時代前期～中期・BC3～1世紀)，弥生・後(弥生時代後期・1～3世紀)
古墳・前(古墳時代前期・4世紀)，古墳・中(古墳時代中期・5世紀)，古墳・後(古墳時代後期・6～7世紀前半)
飛鳥・奈良(7世紀後半～8世紀)

●1　弥生～古墳時代の日本列島に流入した中国・朝鮮半島産の銅鏡(いわゆる舶載鏡)については，渡来人による直接的な持ち込みも考えられるが、多くが北部九州や近畿地方の首長層を介して各地に再配布されたものも多いと考えられ、これら舶載鏡類が直接的に渡来人や渡来人と接触した人と結びつくとはいえないことから、今回のひろしまの渡来人に係る渡来系遺物の集成からは除外した。
(広島県内出土の弥生～古墳時代の銅鏡については、国立歴史民俗博物館『研究報告第56集』1994年がある。)

●2　このほかに以下のものがあるが，出土場所等の特定が困難なことから，除外した。
(1)伝広島市白木町井原出土の陶質土器(壺・蓋・高杯)
(2)伝福山市新市町相方古墳の陶質土器(有蓋高杯)
(3)伝福山市本谷3号古墳出土の白玉製釧(明治40年ごろ出土・福山市教委『本谷遺跡発掘調査概報』1973年)

ひろしまの渡来系遺物１
（弥生時代前期～中期）

（番号は第３図表の番号に一致します）



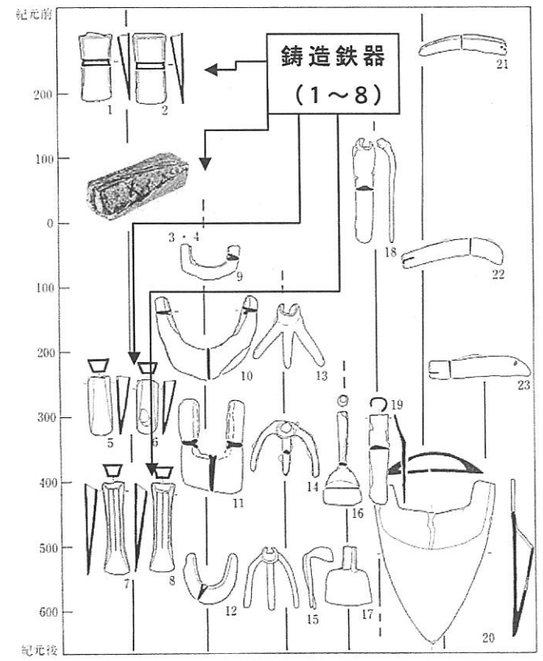
1　建釜（たてがま）　孔列文土器

4　西本６号　鋳造鉄斧

3　中山　鋳造鉄斧

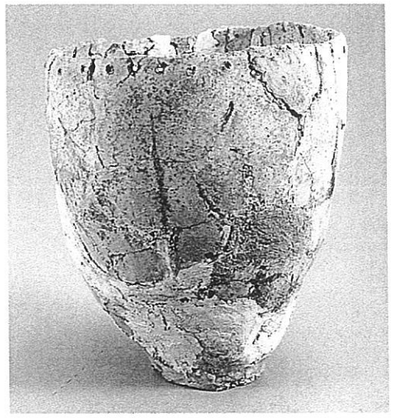
2　大地２号（おおじ）　孔列文土器

参考図版１（朝鮮半島の鉄製農具の変遷）



（村上恭通『倭人と鉄の考古学』1998 年青木書店より）

参考図版２（韓国の孔列文土器）

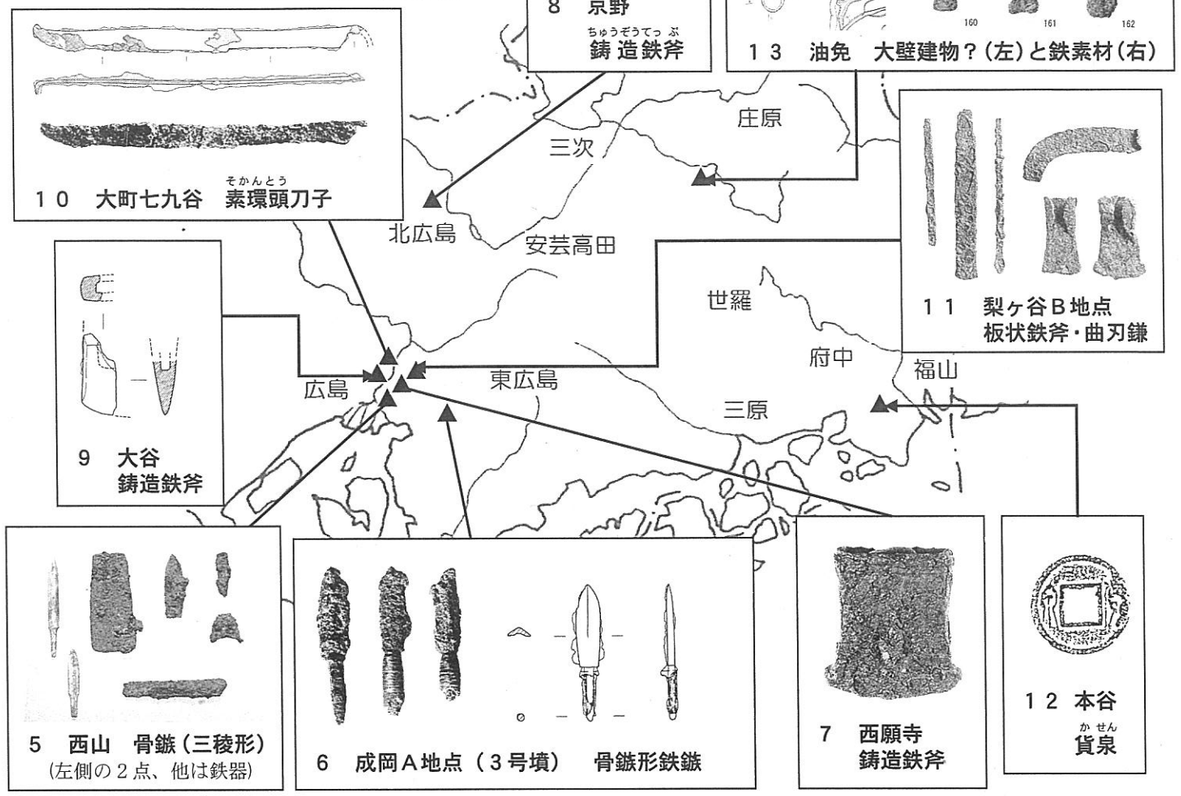


韓国・駅三洞（えきさんどう）遺跡出土

（韓国国立中央博物館『韓国の先･原史土器』1993 年より）

ひろしまの渡来系遺物２
（弥生時代後期）

（番号は第３図表の番号に一致します）



8　京野
鋳造鉄斧（ちゅうぞうてっぷ）

１３　油免　大壁建物？（左）と鉄素材（右）

１０　大町七九谷　素環頭刀子（そかんとう）

１１　梨ヶ谷Ｂ地点
板状鉄斧・曲刃鎌

9　大谷
鋳造鉄斧

5　西山　骨鏃（三稜形）
（左側の２点、他は鉄器）

6　成岡Ａ地点（３号墳）　骨鏃形鉄鏃

7　西願寺
鋳造鉄斧

１２　本谷
貨泉（かせん）

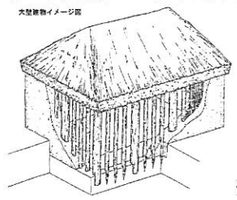
参考図版３（朝鮮半島の素環頭大刀）



韓国・金海・良洞里（りょうどうり）古墳群

（東義大学校博物館『金海良洞里古墳文化』2000 年より）

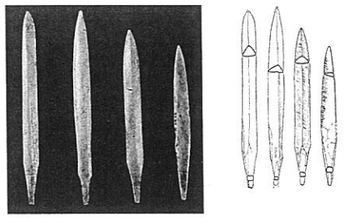
参考図版６（古代の大壁建物想像図）



奈良県・清水谷遺跡

（高取フォトギャラリー2001 年より）

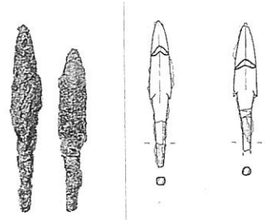
参考図版４（朝鮮半島の骨鏃）



韓国・金海・大成洞（たいせいどう）古墳群

（慶星大学校『金海大成洞古墳群Ⅰ』2000 年より）

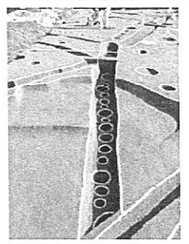
参考図版５（朝鮮半島の骨鏃形鉄鏃）



韓国・金海・良洞里古墳群

（東義大学校博物館『金海良洞里古墳文化』2000 年より）

参考図版７（大壁建物の柱穴）

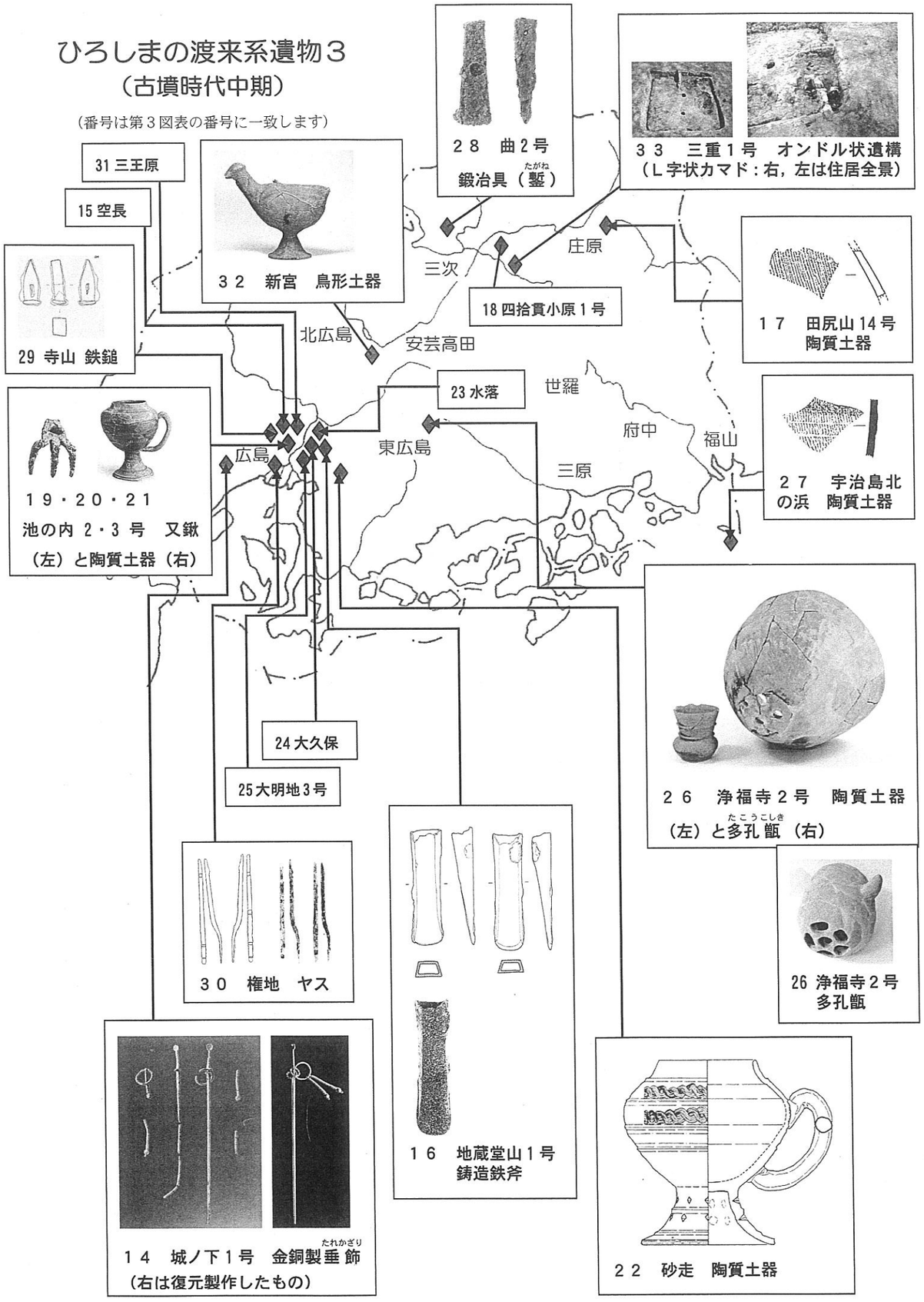


奈良県・清水谷遺跡

（高取フォトギャラリー2001 年より）

ひろしまの渡来系遺物３
（古墳時代中期）

（番号は第３図表の番号に一致します）

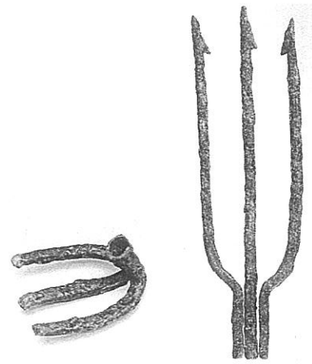


参考図版８（朝鮮半島の鳥形土器）



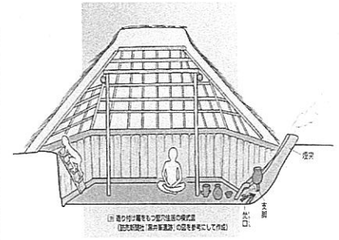
韓国出土（出土地不詳）（韓国国立中央博物館『韓国の先・原史土器』1993 年より）

参考図版９（朝鮮半島の農具漁具）



金海・良洞里古墳群（左・又鍬）
金海・大成洞古墳群（右・ヤス）
（東義大学校博物館『金海良洞里古墳文化』・慶星大学校『金海大成洞古墳群Ⅰ』2000 年より）

参考図版 10（カマドの住居）



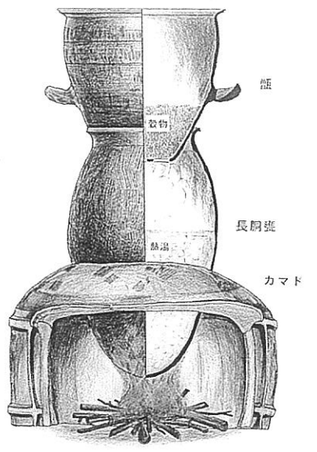
（大阪府立弥生文化博物館『弥生人の食卓』1995 年より）

参考図版 11（韓国の甑）



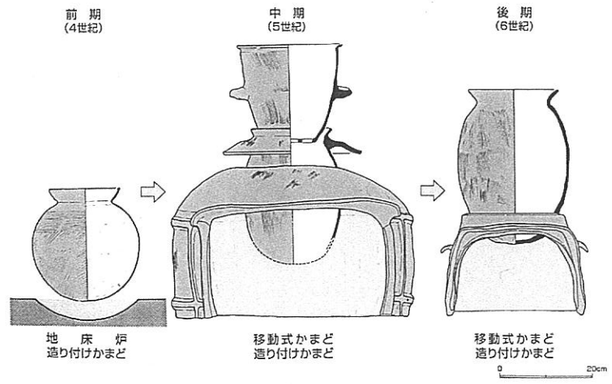
（韓国国立中央博物館『韓国の米の歴史』2000 年より）

参考図版 12（朝鮮半島から渡来したカマド）



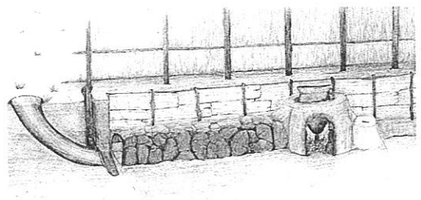
（大阪府立近つ飛鳥博物館『河内湖周辺に定着した渡来人』2006 年より）

参考図版 13（日本の炉からカマドへの変化）



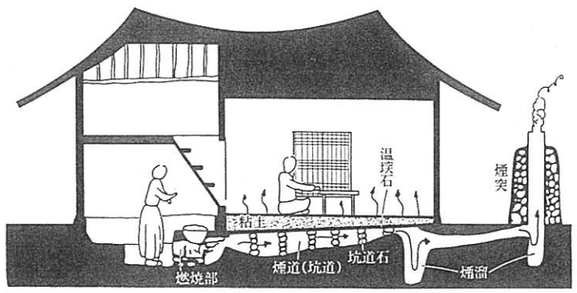
（大阪府立弥生文化博物館『弥生人の食卓』1995 年より）

参考図版 14（朝鮮半島の古代オンドル模式図）



（滋賀県立安土城考古博物館『いにしえの渡り人』1996 年より）

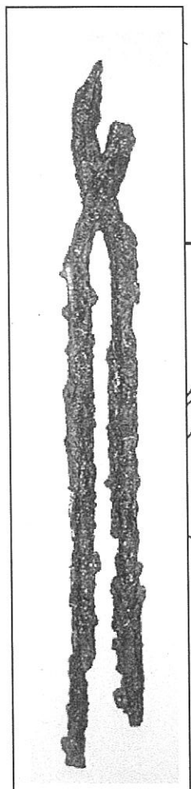
参考図版 15（朝鮮半島の近代のオンドル模式図）



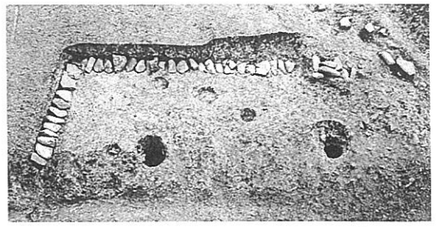
（林博通「オンドルについて」『高句麗の都城遺跡と古墳』1992 年同朋舎出版より）

ひろしまの渡来系遺物４
（古墳時代後期）

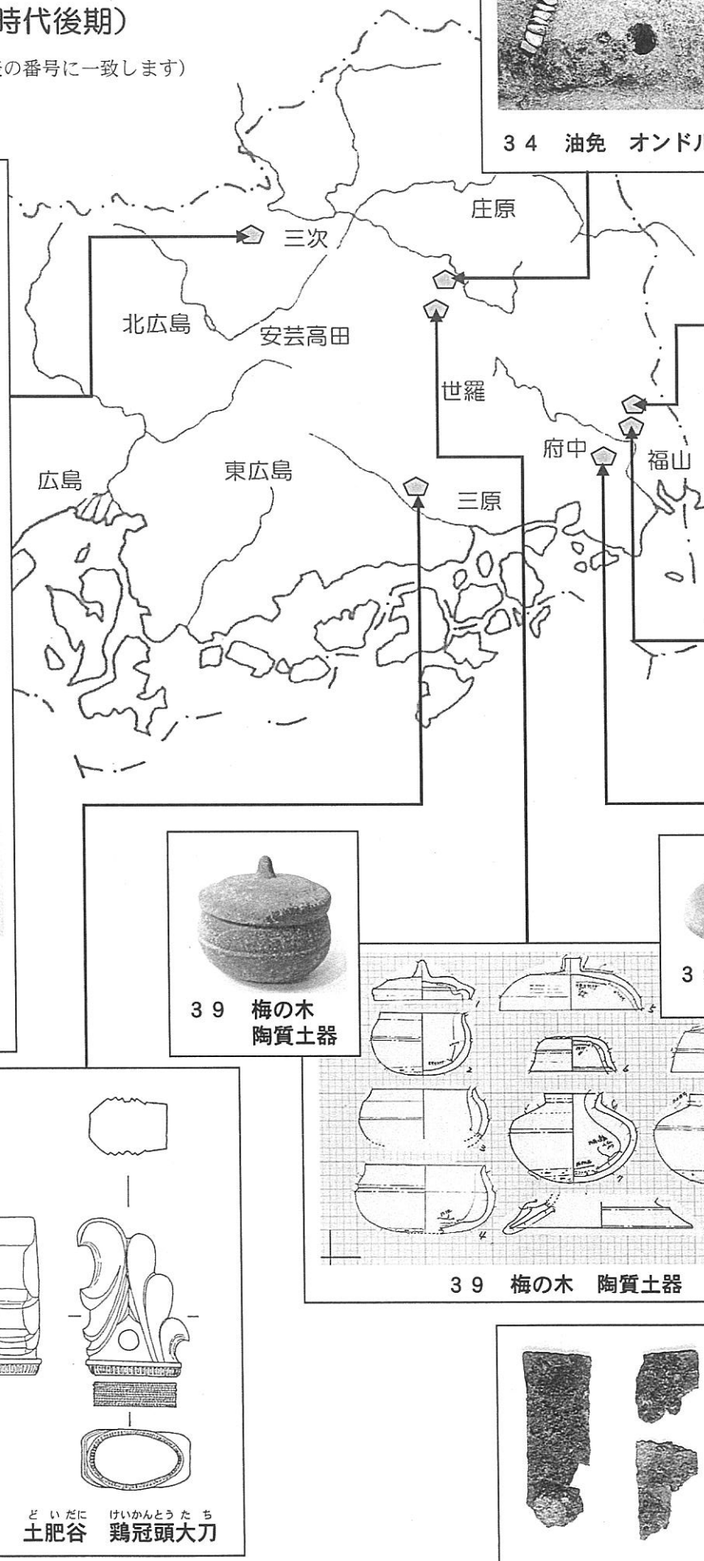
（番号は第３図表の番号に一致します）



３５　上野部（かみのべ）鉄鉗（かなはし）



３４　油免　オンドル？状遺構（石蓋壁溝（いしぶたへきこう））





３６　大迫　金環

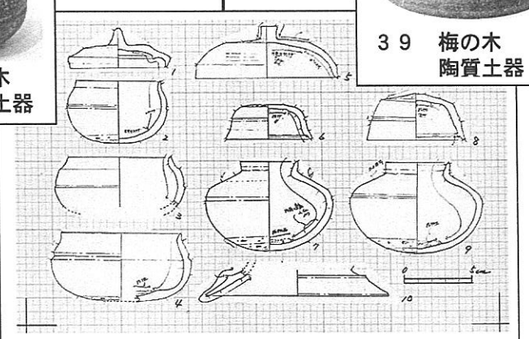


３７　稔松（ねじまつ）２号　指輪

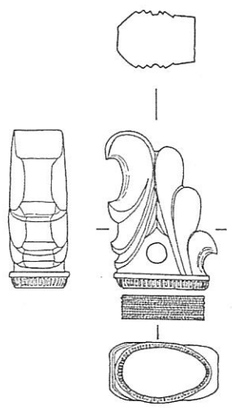
３９　梅の木　陶質土器



３９　梅の木　陶質土器



３９　梅の木　陶質土器



４０　土肥谷（どいだに）　鶏冠頭大刀（けいかんとうたち）



３８　栗柄町内の古墳　鉄鋌（てってい）

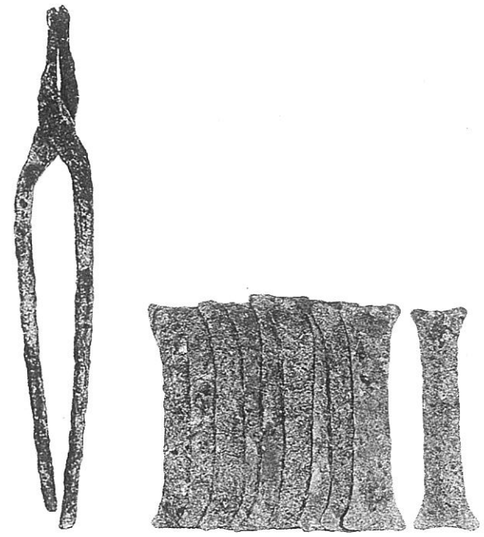
参考図版 16（朝鮮半島南部の伽耶（かや）の陶質土器）



韓国・高麗（こうらい）・池山洞（ちさんどう）44 号墳

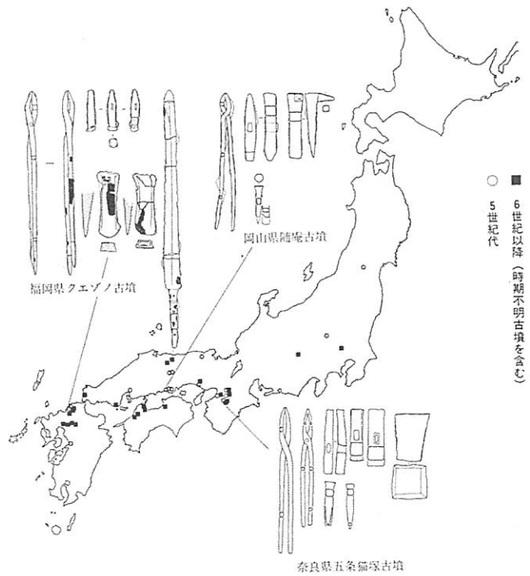
（国立金海博物館『展示図録』1999 年より）

参考図版 17（朝鮮半島の鍛冶具と鉄鋌）



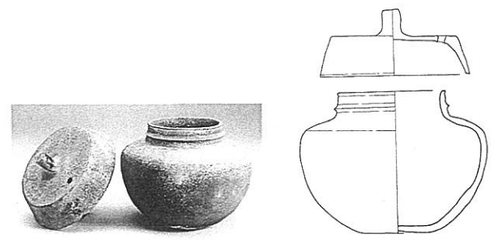
韓国・金海・徳亭里古墳群出土（左・鉄鉗）
韓国・咸安・道項里 10 号墳出土（右・鉄鋌）
（国立金海博物館『展示図録』1999 年より）

参考図版 18（渡来系の鍛冶具を出土した古墳）



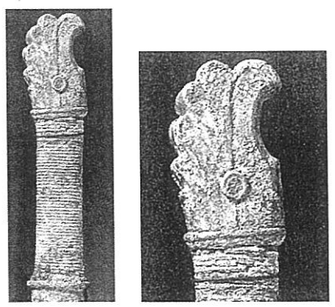
（村上恭通『倭人と鉄の考古学』1998 年青木書店より）

参考図版 19（梅の木古墳と類似の韓国の陶質土器）



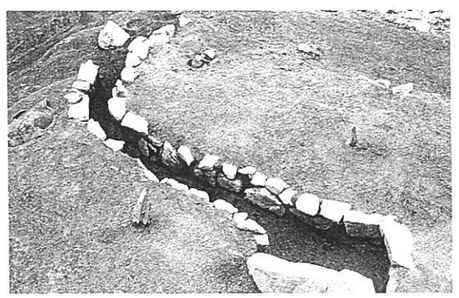
韓国・金海・良洞里古墳群 340 号出土
（東義大学校博物館『金海良洞里古墳文化』2000 年より）

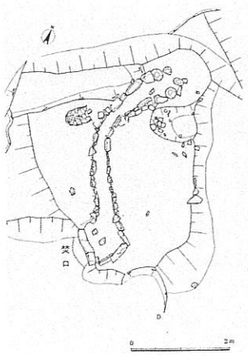
参考図版 20（鶏冠頭大刀）



千葉県・金鈴塚古墳出土
（白石太一郎編『古代史復元７古墳時代の工芸』1990 年講談社より）

参考図版 21（渡来系のオンドル遺構）

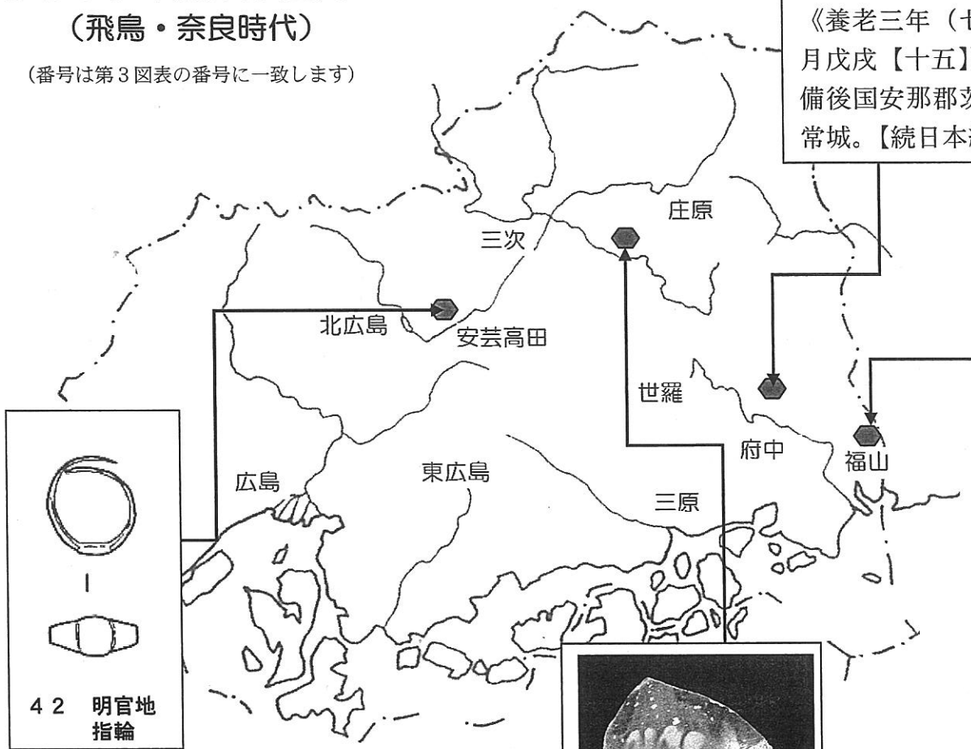




滋賀県・穴太（あのう）遺跡　（滋賀県立安土城考古博物館『いにしえの渡り人』1996 年より）

ひろしまの渡来系遺物５
（飛鳥・奈良時代）

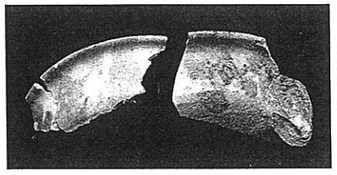
（番号は第３図表の番号に一致します）



４３　常城（府中市）
４４　茨城（福山市）
《養老三年（七一九）十二月戊戌【十五】》○戊戌。停備後国安那郡茨城。葦田郡常城。【続日本紀】

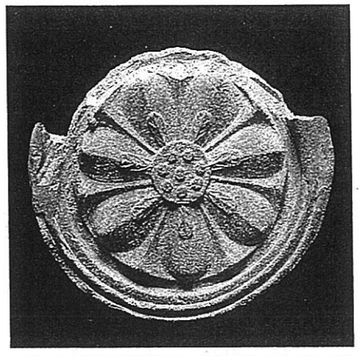
４２　明官地指輪

参考図版 22（明官地の奈良三彩・火舎）

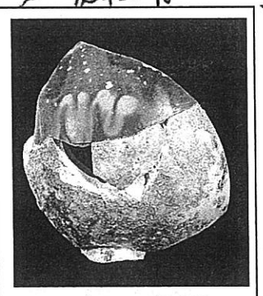


（吉田町教育委員会『明官地廃寺跡-試掘調査概要-』1985 年より）

参考図版 23（明官地の軒丸瓦）

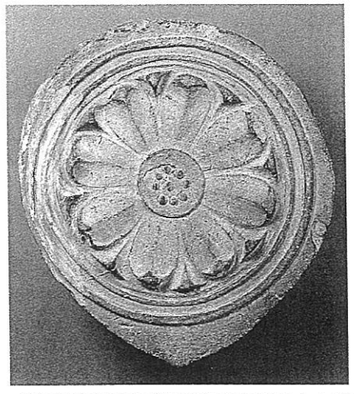


（吉田町教育委員会『明官地廃寺跡-試掘調査概要-』1985 年より）



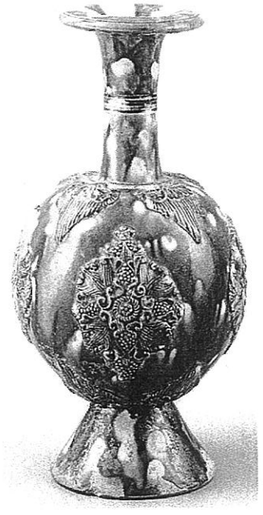
４１　寺町　唐三彩

参考図版 24（寺町の軒丸瓦）



（広島県立歴史博物館『寺町廃寺と水切り瓦』1998 年より）

参考図版 25（寺町の唐三彩と同種の完形品）



東京国立博物館所蔵　（広島県立歴史博物館『瀬戸内の中国陶磁』1991 年より）

白村江の海戦

当時、北九州の島々や沿岸地方では、おそらく若者たちの姿を見なかったにちがいない。かれらは、この大遠征のためにかりだされた。『日本書紀』では、

「日本」

という国名をつかっているが、兵士たちに国家への意識があったかどうか。氏族という小世界の長老の命ずるがまま軍船にのり、いつのまにか涯もない大海に泛んでしまっていたというのがおおかたの実感であったろうし、ときには日本という国名さえ知らない若者もいたにちがいない。

しかしながら陸地を離れて洋上に出たとき、

「われわれの住んでいる陸地は、日本とよばれるようになっているらしい」

ということに気づいたにちがいなく、同時にそれまで小さな氏族の氏人にすぎなかった自分が、日本人という抽象的グループに属する人間であることも気づかされた。敵は、

「唐」

である。唐を意識するとき、当然ながらかれは阿曇のなにがしや大伴のなにがしではなく、日本籍のなにがしであるということを意識すまいとしても意識するようになる。日本人が個々の意識のなかで誕生するのは、このときが最初であったにちがいない。

同時に、日本の統一的なぬしはたれかということを当然意識するようになる。それは天皇であった、と兵士たちは上から教えられたとおり、痛烈におもったにちがいない。

日本の下層者の意識のなかに天皇が誕生するのも、このときからであったであろう。

玄界灘に、沖島という孤島があり、大海のなかに三角帽子のようにして山がひとつ突き出てい

司馬遼太郎『街道をゆく２　韓のくに紀行』1978 年（朝日文庫）朝日新聞社より「白村江の海戦」



基調講演Ⅰ（10:40～12：00）

「朝鮮半島，吉備，そして備後の寺々」

岡山理科大学大学院 教授　亀田　修一

1　はじめに

2　朝鮮半島の古代寺院と瓦

（1）高句麗

（2）新羅

（3）百済

3　飛鳥の古代寺院と瓦

4　吉備の古代寺院と瓦

（1）寺院造営以前の吉備と朝鮮半島

（2）吉備の古代寺院と瓦

5　備後の古代寺院と瓦

（1）備後寺町廃寺

（2）備後中谷廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦

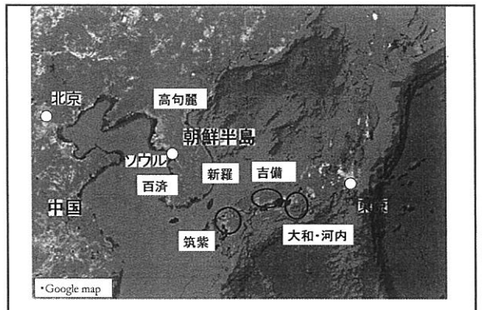
6　おわりに

平成23年度「ひろしまの遺跡を語る」
「古代の東アジアとひろしまー白村江の戦いと寺町廃寺（三次市）ー」
平成24年1月21日（土）10時～16時
広島県民文化センター多目的ホール

朝鮮半島、吉備、そして備後の寺々

岡山理科大学
亀田修一

1．はじめに
1．朝鮮半島の古代寺院と瓦
（1）高句麗
（2）新羅
（3）百済
2．飛鳥の古代寺院と瓦
3．吉備の古代寺院と瓦
（1）寺院造営以前の吉備と朝鮮半島
（2）吉備の古代寺院と瓦
4．備後の古代寺院と瓦
（1）備後寺町廃寺
（2）備後中谷廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦

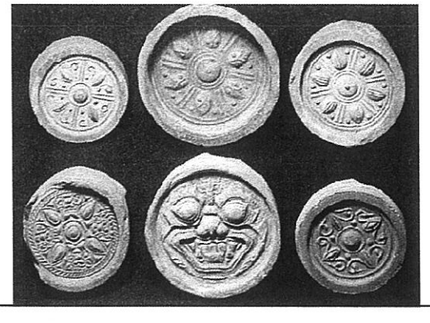


中国・朝鮮半島と日本列島



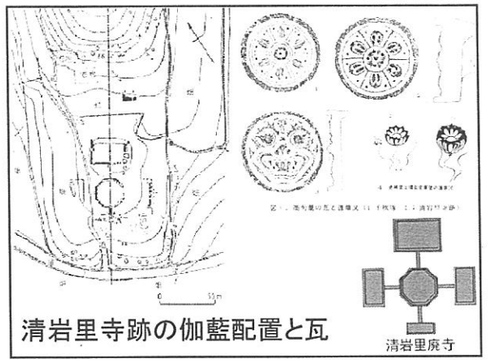
1．朝鮮半島の古代寺院と瓦

（1）高句麗



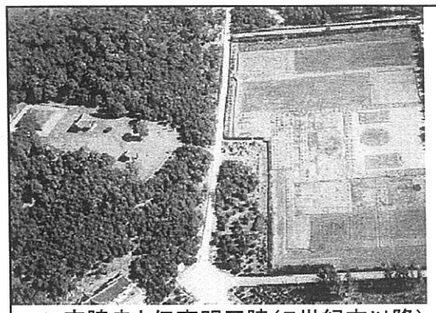


清岩里寺跡（前期平壌城？：427～586年）
（東潮・田中俊明『高句麗の歴史と遺跡』）1995

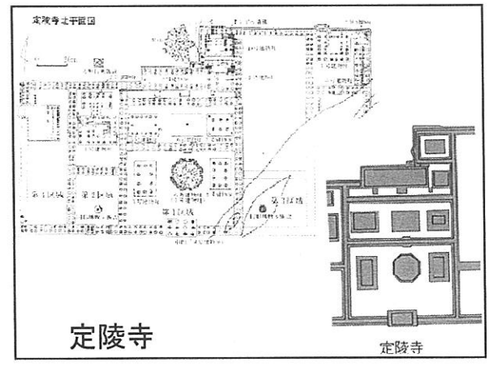


清岩里寺跡の伽藍配置と瓦

清岩里廃寺

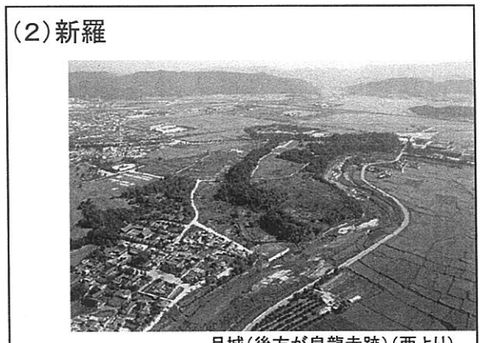


定陵寺と伝東明王陵（5世紀末以降）
長寿王陵（491年没）？



定陵寺

定陵寺

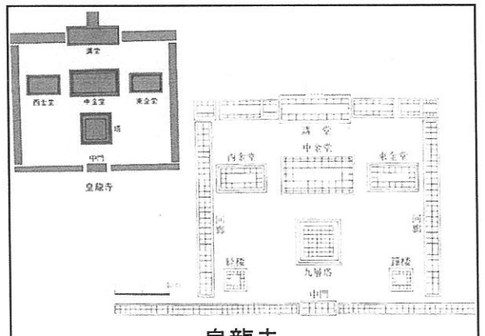


（2）新羅

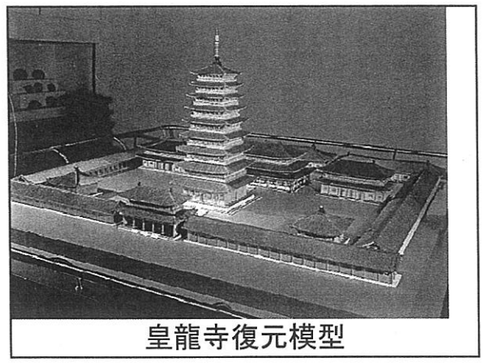
月城（後方が皇龍寺跡）（西より）



皇龍寺（真興王14年[553]創建）



皇龍寺



皇龍寺復元模型



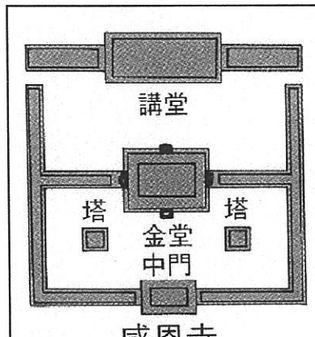
皇龍寺鴟尾
（高さ182cm）



皇龍寺
軒丸瓦



皇龍寺塔舎利荘厳具（7世紀中葉）



感恩寺

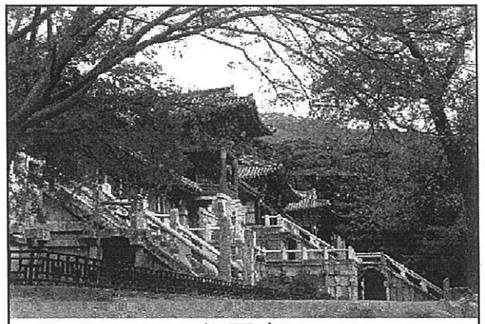
感恩寺

文武王が創建、未完成で死亡。子の神文王が682年完成。（『三国遺事』巻2、万波息笛条分註）

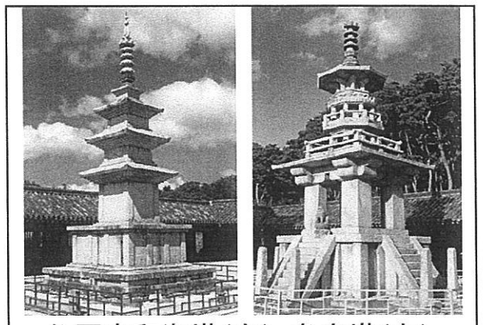


仏国寺

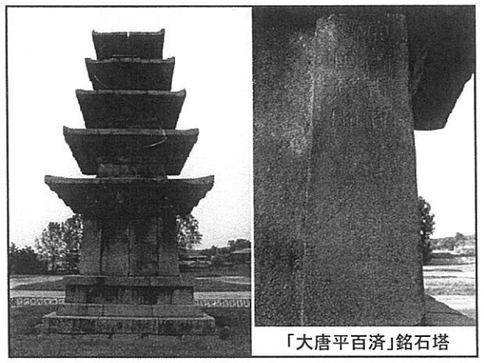
751年、景徳王代、大宰相大城が創建し、774年、彼の死後、国家があとを承けて完成させた（『三国遺事』巻5、大城孝二世父母条）



仏国寺



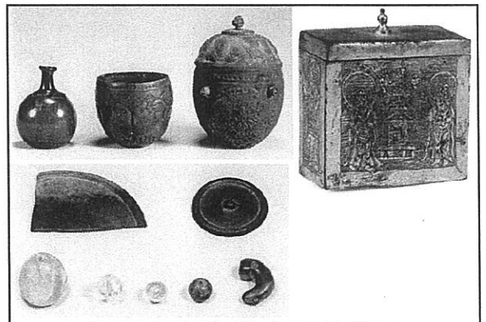
仏国寺釈迦塔（左）・多宝塔（右）



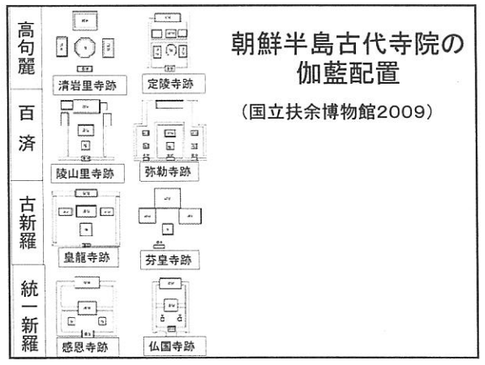
「大唐平百済」銘石塔



定林寺陶俑
（北魏永寧寺に類例）



仏国寺釈迦塔舎利荘厳具



朝鮮半島古代寺院の
伽藍配置

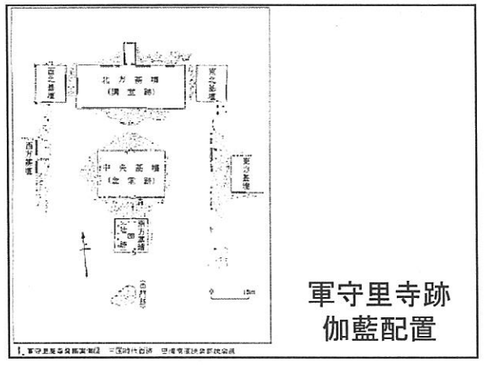
（国立扶余博物館2009）

[軍守里寺跡]

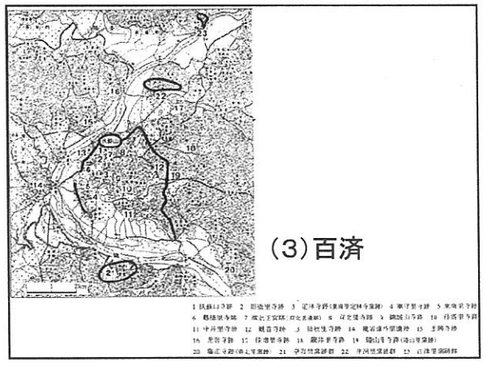
一塔式伽藍配置、瓦積基壇



南より



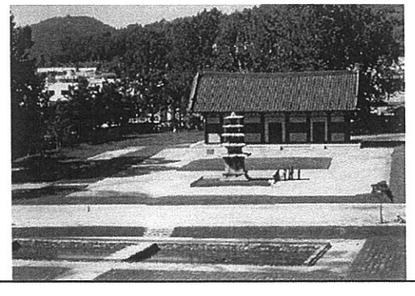
軍守里寺跡
伽藍配置



（3）百済

[定林寺跡]

一塔式伽藍配置、瓦積基壇、中門前に蓮池





瓦積基壇



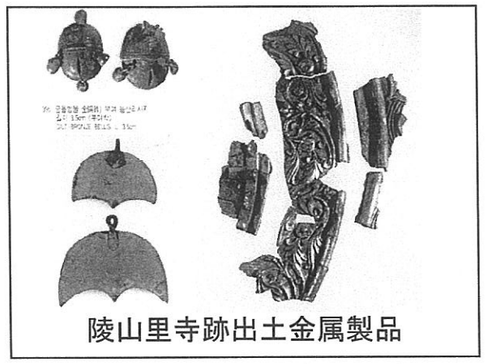
素弁蓮華文軒丸
瓦・指押さえ重弧
文軒平瓦



箱形文様塼



軍守里寺跡の仏像



陵山里寺跡出土金属製品



陵山里寺跡出土
煙突

[陵山里寺跡]

- 羅城のすぐ外、陵山里古墳群西
- 塔心礎上から舎利龕「百済昌王十三季太歳在丁亥妹兄公主供養舎利」
- 昌王(威徳王)13(567)年、父聖王のために造営
- 北西部で金銅製龍鳳文大香炉
- 多量の瓦、金銅製光背片、鍍金製品、金銅製鈴、風招、ガラス玉、玉板、塑像仏、緑釉陶器など
- 伽藍北西部は工房。ガラス製品、金銅製品などを生産



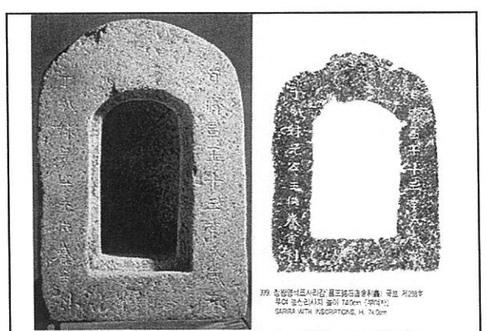
陵山里寺跡の伽藍復元



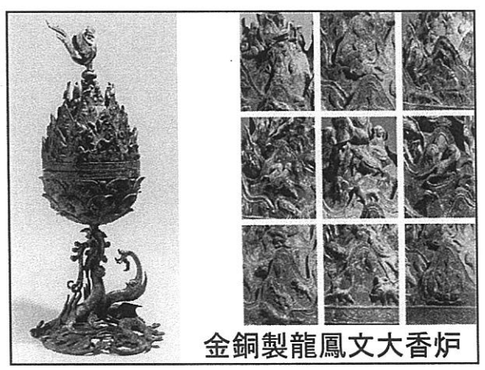
陵山里寺跡出土瓦

[王興寺跡](国立扶余博物館2008)

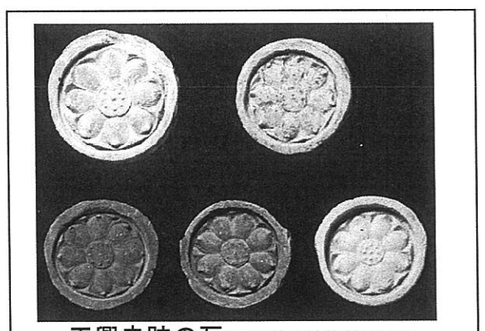




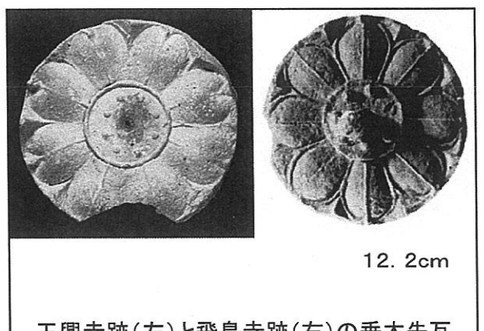
昌王13(567)年石造舎利龕



金銅製龍鳳文大香炉



王興寺跡の瓦(国立扶余博物館2002)



12. 2cm

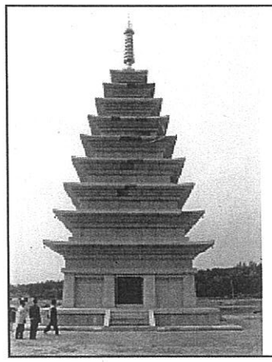
王興寺跡(左)と飛鳥寺跡(右)の垂木先瓦



王興寺跡の舎利容器(国立扶余博物館2009)



王興寺跡の舎利容器(右高さ10．3cm)
(国立扶余博物館2009)



弥勒寺跡復元
東塔



弥勒寺跡西塔

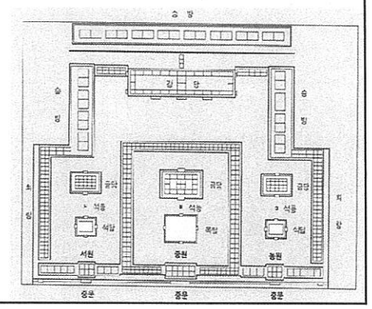


丁酉年二月十五日百濟王昌爲亡子立刹本舍王時葬枚刹利二神化爲三

丁酉年:577年

王興寺跡舎利容器銘文(国立扶余博物館2009)

[益山弥勒寺]武王代(600～641年)創建





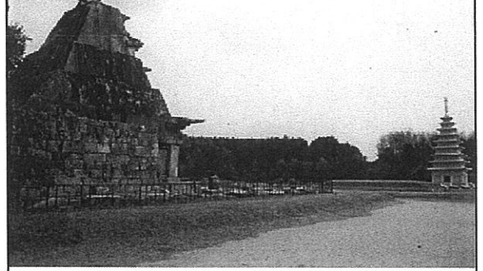
西塔内部



西塔南東隅石造物



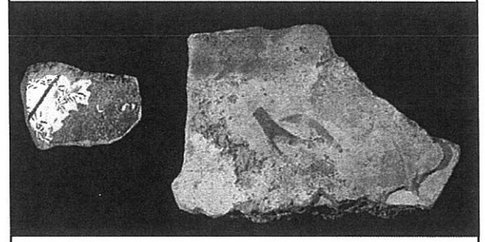
弥勒寺跡伽藍復元



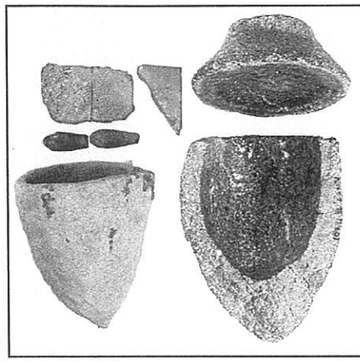
弥勒寺跡の東西石塔



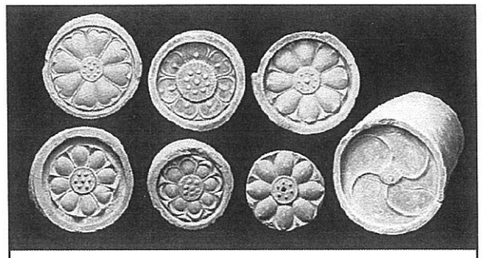
弥勒寺跡出土瓦



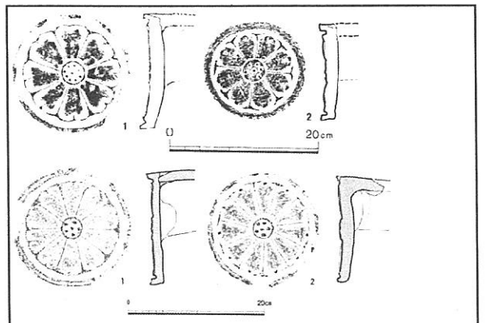
弥勒寺跡壁画



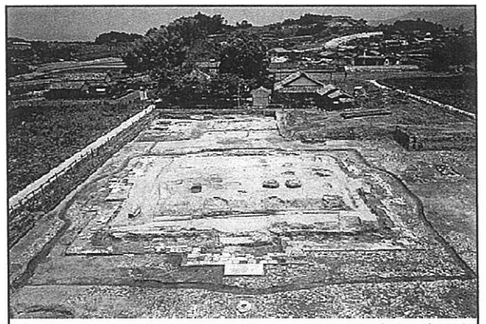
弥勒寺跡ガラス生産関連遺物



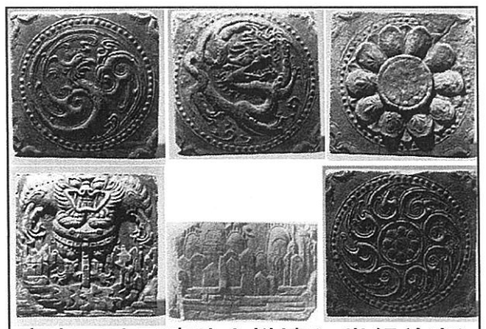
いろいろな百済瓦



百済(上)と飛鳥寺(下)の軒丸瓦(納谷2005)



山田寺:641年蘇我倉山田石川麻呂創建

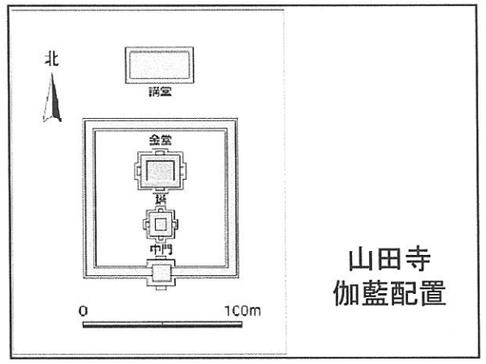


窺岩面外里遺跡文様塼(7世紀前半)

3. 飛鳥の古代寺院と瓦



飛鳥寺(588年創建)



山田寺
伽藍配置



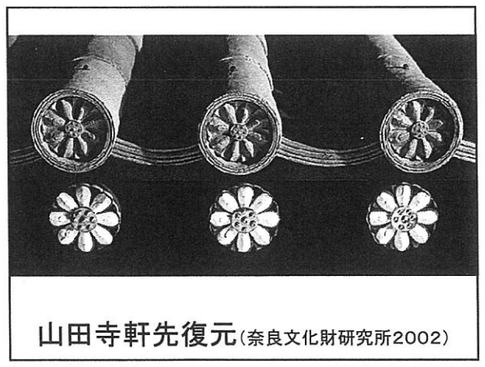
山田寺式軒瓦(奈良文化財研究所2002)



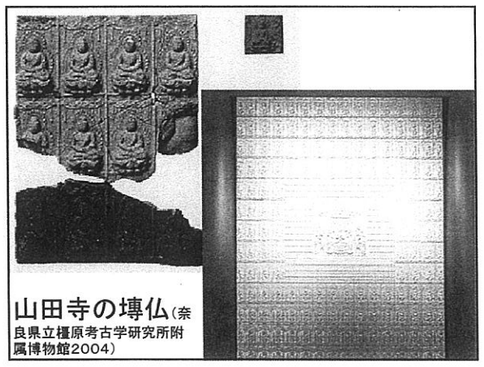
飛鳥寺大仏
:鞍作鳥



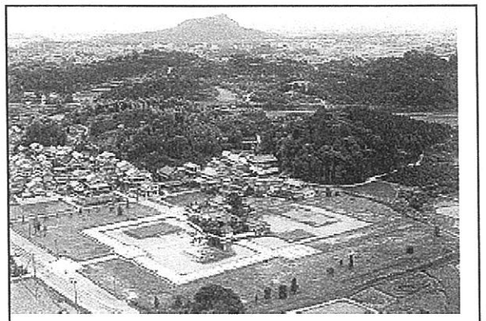
飛鳥寺の創建瓦



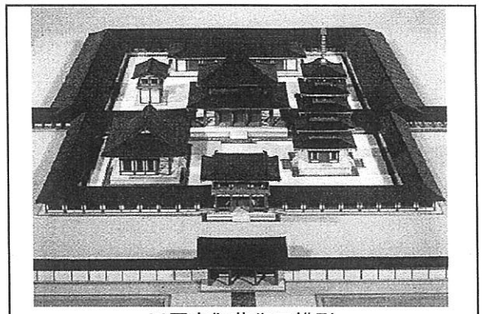
山田寺軒先復元(奈良文化財研究所2002)



山田寺の塼仏(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館2004)



川原寺：天智元～6（662～667）年、勅願により造営？

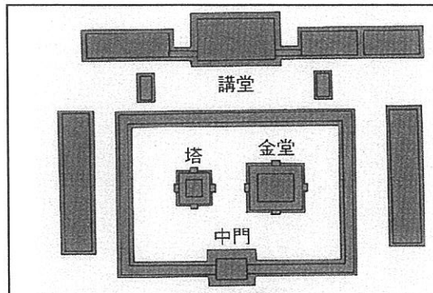


川原寺伽藍復元模型
（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館2004）

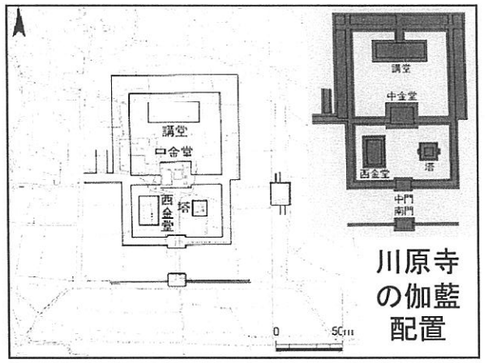
法隆寺の建立

［斑鳩寺］（若草伽藍）
- ・記録では、聖徳太子が607年創建
- ・考古学的には610年頃に金堂創建
- ・630年頃塔創建
- ・670年焼失（『日本書紀』）

［法隆寺西院伽藍］
- ・670年頃金堂再建開始→690年頃には竣工
- ・塔・中門：711年頃完成
- ・講堂・経蔵・僧坊：天平年間完成



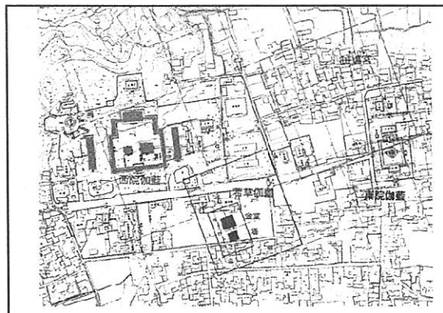
法隆寺西院
法隆寺の伽藍配置



川原寺
の伽藍
配置



川原寺式軒瓦（奈良文化財研究所2002）



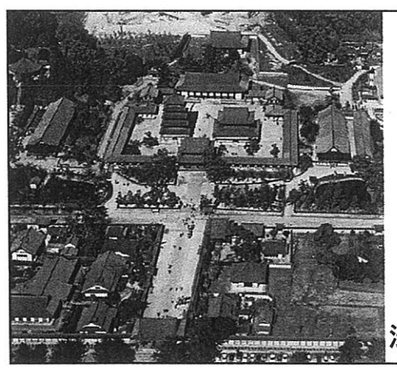
法隆寺・若草伽藍



法隆寺金堂
釈迦三尊像
（623年、鞍作鳥作）



川原寺の
塼仏
（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館2004）



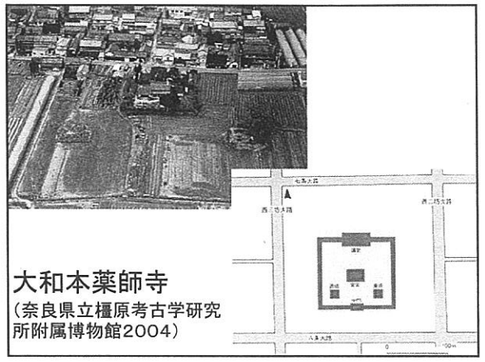
法隆寺



法隆寺若草伽藍の飛鳥時代瓦（610年頃）

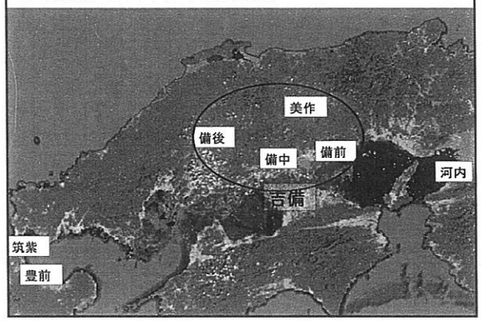


法隆寺西院金堂の法隆寺式軒瓦（670年頃）




平城薬師寺の双塔式伽藍

4．吉備の古代寺院と瓦



（1）寺院造営以前の吉備と朝鮮半島

［備中造山古墳周辺］



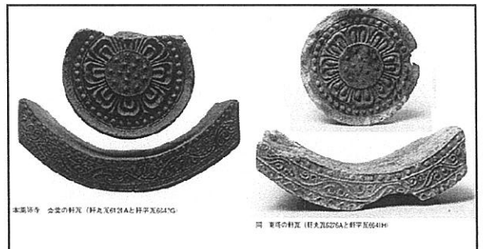
薬師寺の建立

［本薬師寺］

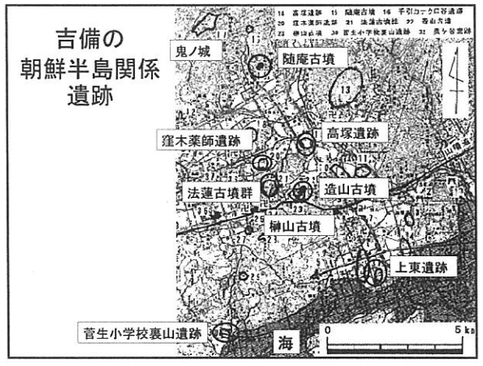
- ・680年、天武天皇が皇后（のちの持統天皇）の病気平癒のために発願
- ・698年完成
- ・薬師寺式伽藍配置：双塔式伽藍配置

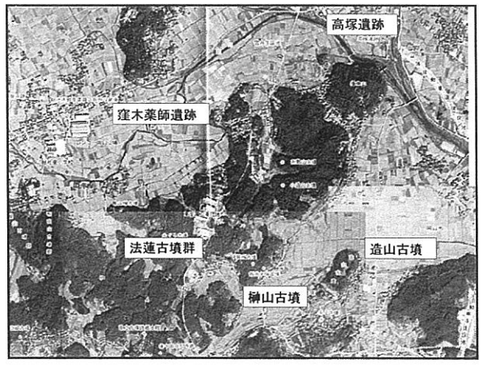
［平城薬師寺］

- ・710年の平城宮遷都に伴い、奈良へ移る


本薬師寺金堂（左）・東塔（右）の瓦
（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館2004）

吉備の朝鮮半島関係遺跡





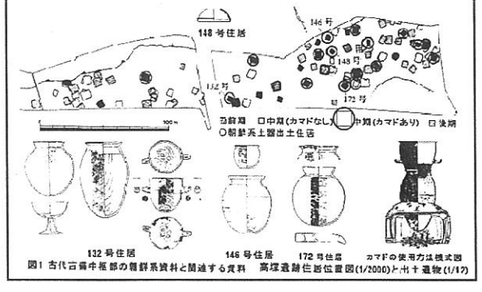

大和薬師寺釈迦如来像（丈六像：高さ約2・4m）

＊地方での寺院造営のはじまり

- ・620～630年ころの備中秦原廃寺が最古クラス
- ・7世紀中ごろに少しずつ造営がはじまる。
  - ・安芸横見廃寺、備前賞田廃寺、備中箭田廃寺
  - ・讃岐開法寺跡、伊予法安寺跡・来住廃寺など
- ・663年の白村江の戦い以後さらに少しずつ増加
  - ・備後寺町廃寺→白村江の戦いに参戦した備後三谿郡の大領の祖先が建てた「三谷寺」。百済僧関与
- ・685年、天武天皇による寺院造営奨励

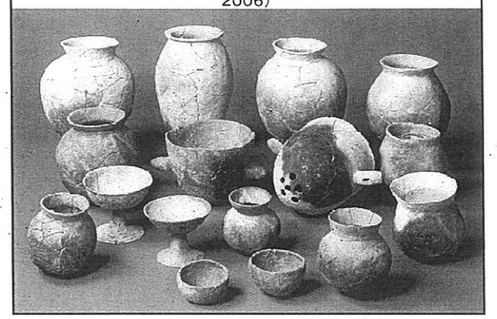
「諸国の家ごとに仏舎を造り、仏像および経典を置いて礼拝供養せしめる詔」

岡山県高塚遺跡住居分布図（3～7世紀）




岡山県高塚遺跡132号住居のカマド（5世紀前半）

高塚遺跡132号住居出土土器(5世紀)(岡山県立博物館2006)



岡山県窪木薬師遺跡の鉄器生産

- 5世紀前半～7世紀前半の鍛冶遺跡
- 13号住居(5世紀前半、カマド住居)から吉備産初期須恵器、軟質系土器、伽耶系鉄鏃・鉄鋌、鉄滓
- 6世紀中葉から鉄器生産工房が増加



榊山古墳(5世紀前半)

- 直径約35mの円墳
- 馬形帯鉤
- 伽耶系陶質土器
- 鍛冶具(鉄槌・鉄床)、砥石



榊山古墳の馬形帯鉤



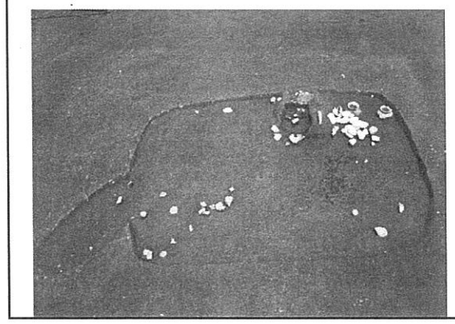
天安清堂洞遺跡の馬形帯鉤

随庵古墳(5世紀前半)

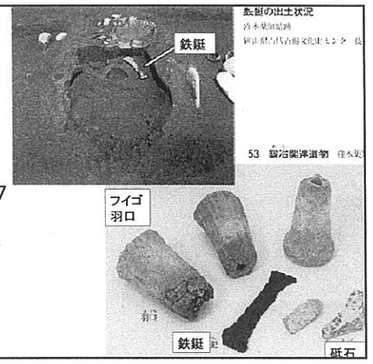
- 約40mの前方後円墳
- 竪穴式石室内に鋸使用割竹形木棺
- 鍛冶具、ヤスリ、砥石
- 横矧板鋲角付冑、三角板鋲留短甲
- 木心鉄張輪鐙



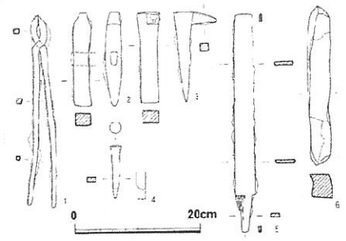
岡山県窪木薬師遺跡13号住居(5世紀前半)



窪木薬師遺跡鉄器生産関連資料(5～7世紀)(岡山県立博物館2006)



随庵古墳の鍛冶道具セット(5世紀前半)



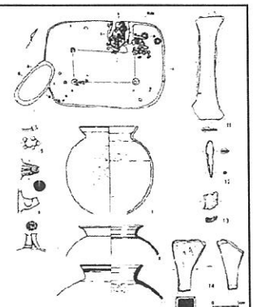
総社市随庵古墳出土鍛冶具(1/6)

1．鉄鉗　2．鉄槌　3．鉄床　4．鑿　5．鎚　6．砥石

法蓮古墳群

- 法蓮37号墳
  - 一辺8mの方墳、5世紀前半、木棺直葬
  - 土師器形態の須恵器、陶質土器形態の土師器
  - 墳頂部の家形埴輪

窪木薬師遺跡13号住居の遺物(5世紀)



窪木薬師遺跡の住居 13(1/160)と出土遺物(土器:1/12、その他:1/8)

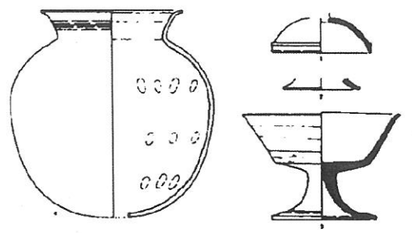
榊山古墳(造山古墳の陪塚)



法蓮37号墳出土吉備産須恵器



法蓮37号墳出土土器

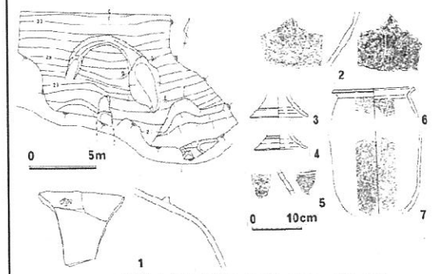


法蓮37号墳出土遺物(1/12)

奥ヶ谷窯跡
・5世紀前半の須恵器窯、伽耶（洛東江下流域）系
・軟質系土器も生産、短期間の操業で停止



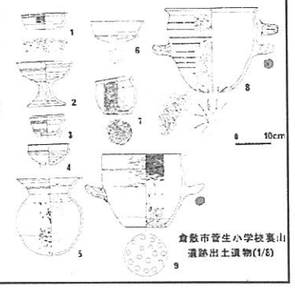
奥ヶ谷窯跡



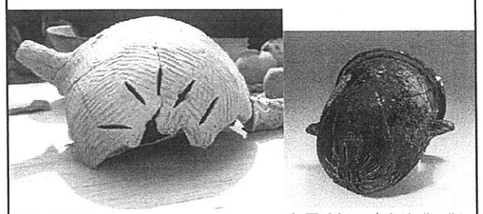
総社市奥ケ谷窯跡（遺構 1/300 、遺物 1/8）

菅生小学校裏山遺跡出土遺物（5世紀）

1. 全羅道系
9. 全羅道・伽耶西部系
5. 百済系
3, 4, 8. 伽耶東部・新羅系

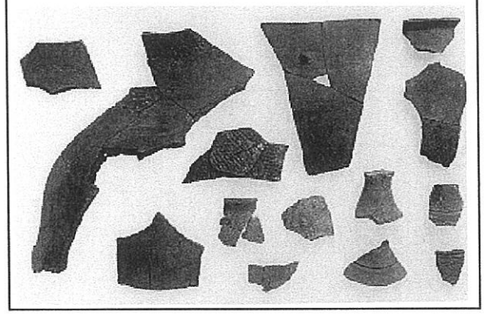


菅生小学校裏山遺跡出土新羅系甑



菅生小学校裏山遺跡　　新羅味鄒王陵古墳群の甑

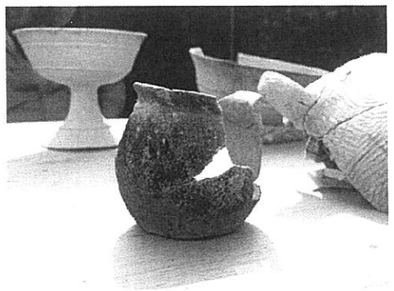
奥ヶ谷窯跡の遺物（岡山県立博物館2006）



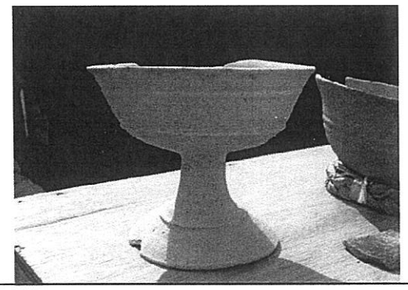
須恵器大甕

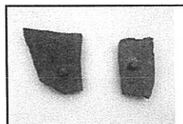


菅生小学校裏山遺跡軟質系土器平底鉢



菅生小学校裏山遺跡
吉備産初期須恵器高杯

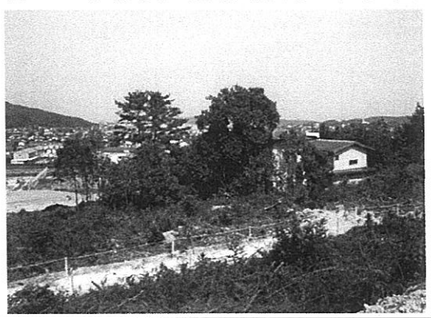




奥ヶ谷窯跡出土須恵器・土師器・軟質系土器甕



菅生小学校裏山遺跡：港湾？（5世紀）



窪木遺跡の三又鍬（6世紀）



＊吉備の乱（463）と白猪屯倉（555）・児島屯倉（556）の設置

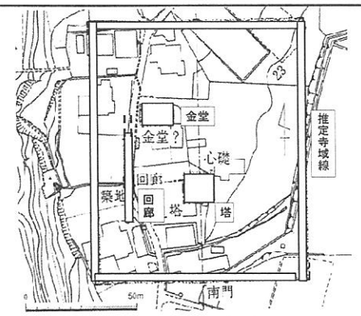
・窪木薬師遺跡の6世紀中葉からの鍛冶遺構の増加
・千引カナクロ谷遺跡の製鉄遺構（6世紀後半）

千引カナクロ谷遺跡製鉄遺構(6世紀後半)
(岡山県立博物館2006)

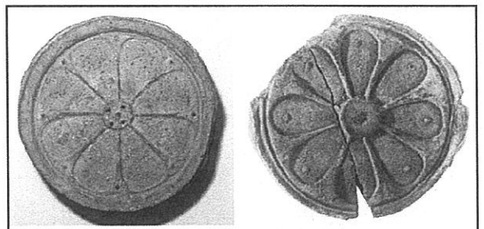


[文字史料に見える吉備の渡来人]

- 正倉院文書「備中国大税負死亡人帳」(740年)
- 忍海漢部:賀夜郡庭瀬郷三宅里
  鉄との関わり
- 西漢人部:賀夜郡阿蘇郷
  千引カナクロ谷遺跡
- 都宇郡、賀夜郡、窪屋郡における渡来人の比率
- 都宇郡:6／15＝40%、賀夜郡:7／33＝21%、窪屋郡:0／24＝0%



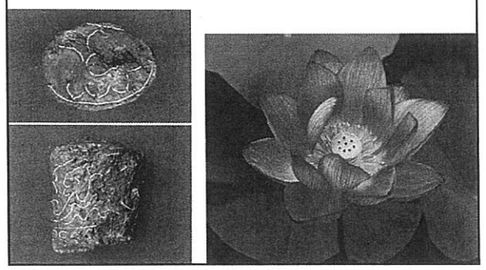
備中秦原廃寺

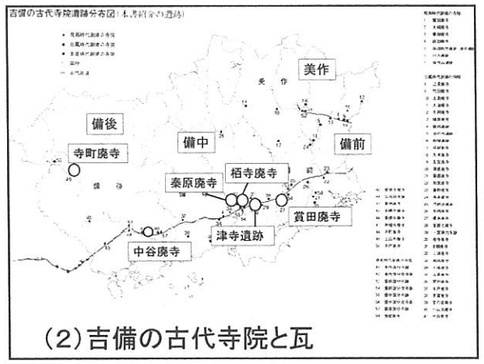


秦原廃寺(15．4cm)　山背広隆寺(15．2cm)
(奈良国立博物館1970)

備中秦原廃寺と山背広隆寺の瓦
(7世紀前半)

総社市緑山17号墳蓮華文象嵌大刀
(6世紀末～7世紀前半)

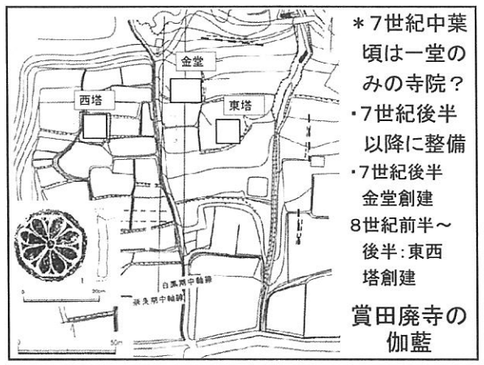




(2)吉備の古代寺院と瓦

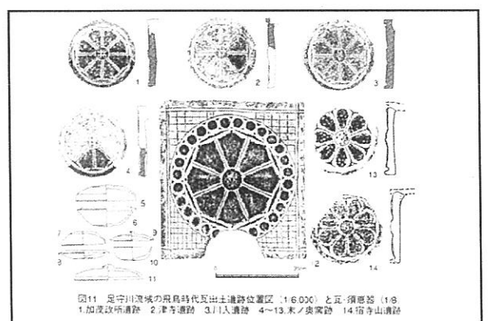


備中秦原廃寺の
7世紀後半の瓦
(吉備[備中]式重弁蓮華文軒丸瓦と顎面施文軒平瓦)

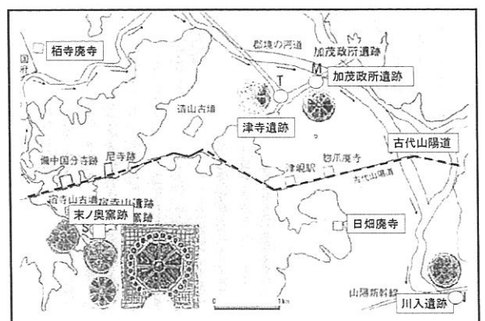


- ＊7世紀中葉頃は一堂のみの寺院？
- 7世紀後半以降に整備
- 7世紀後半金堂創建
- 8世紀前半～後半:東西塔創建

賞田廃寺の伽藍



吉備の飛鳥時代瓦

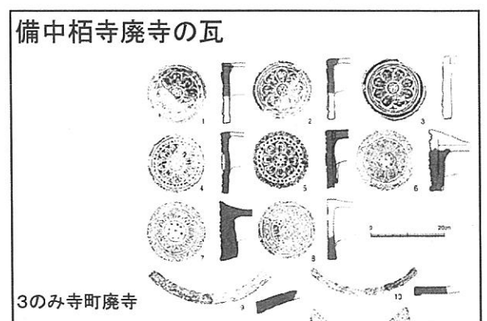


吉備の飛鳥時代瓦出土遺跡の分布



備前賞田
廃寺の軒
丸瓦

備中梶寺廃寺の瓦

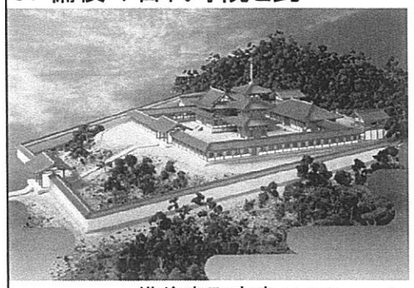


3のみ寺町廃寺



備中栢寺廃寺の瓦

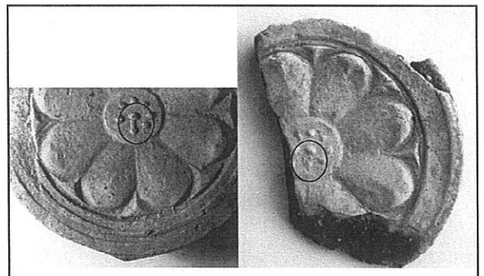
5. 備後の古代寺院と瓦



備後寺町廃寺（広島県1998）



備後寺町廃寺の創建瓦
（7世紀中葉～後半）



寺町廃寺瓦（左）と同笵の栢寺廃寺瓦（右）
（同じ笵キズ：寺町廃寺大・栢寺廃寺小）



吉備の古代寺院の分布

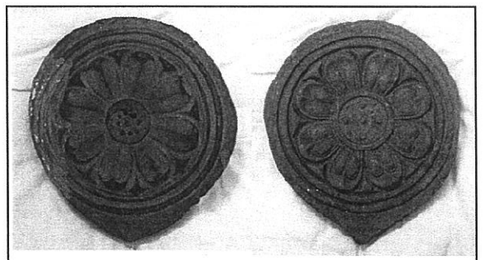
（1）備後寺町（てらまち）廃寺

- 『日本霊異記』（822年頃成立）の三谷寺と推測されている。
- 663年の白村江の戦いにより日本・百済は唐・新羅連合軍に敗北
- 白村江の戦いに参戦した備後三谿郡の大領の祖先が「三谷寺」を建立
  これに百済僧が関与
- 創建瓦は備中栢寺廃寺の笵型が移動

[三谷寺]広島県三次市寺町廃寺が候補

- 伽藍配置：法起寺式：大和法起寺などで使用
  →畿内系？。畿内→吉備の寺院→寺町廃寺という可能性も
- 基壇：瓦や塼を使用：百済に瓦積基壇→百済系？
- 瓦：近畿地方との直接的な関係は不明
  備中栢寺廃寺に同笵瓦。笵キズにより栢寺廃寺→寺町廃寺：備中との関係

＊栢寺廃寺も瓦積基壇、瓦を含め百済→備中→寺町廃寺という流れを想定しても良いかもしれない。



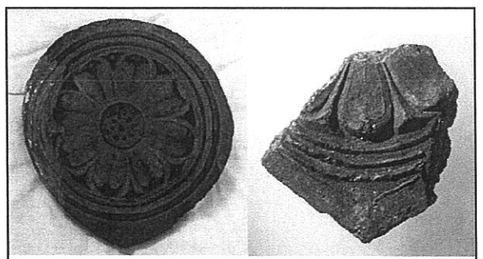
備後寺町廃寺（左）と上山手廃寺（右）の水切り瓦

『日本霊異記』上巻第7「亀の命を買い取って放生し、現報を得て、亀に助けられる縁」

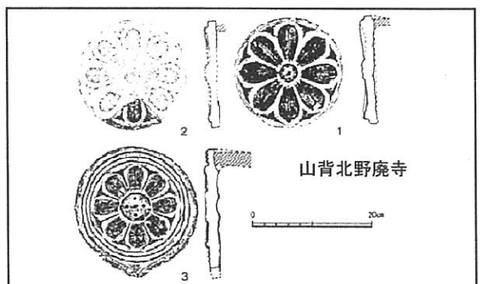
「三谿郡大領の祖先が663年の白村江の戦いに参戦し、もし、『無事に生きて帰ることができたらいろいろの神様のために伽藍を建てます』と誓願し、生きて帰ることができたので、一緒に連れて帰ってきた百済禅師弘済に三谷寺を建ててもらった」

「弘済は仏像を造るために都に上り、金や絵の具などを買って帰る途中、難波津で4匹の大亀を買い、放してやった。そして舟を借りて帰ろうとしたが、備前骨（かばね）島あたりで舟人が賊にかわり、海に入れられたとき、難波津で助けた亀に助けられ、備中の海岸まで運んでもらった」

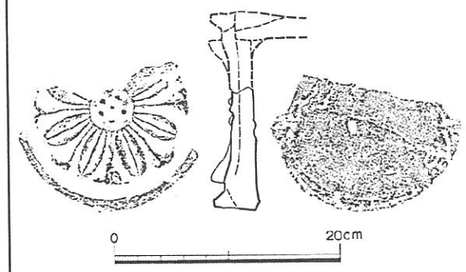
①日本列島の地方郡司層が白村江の戦いに参戦
②そこでの悲惨さも含めいろいろと実感し、仏教に帰依し、寺院を建てようと考えた
③百済のお坊さんを連れて帰ってきて寺を建てた
＊7世紀後半の地方における寺院造営の背景に、このような信仰心・精神的なものが関わっている
＊百済の僧はその資材を都に求めに行き、帰りに備中に立ち寄った。
＊この話と寺町廃寺創建瓦が備中と関わる話は偶然？



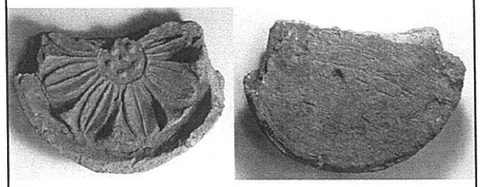
備後寺町廃寺と備中大崎廃寺の水切り瓦（左：寺町廃寺、右：大崎廃寺）



備中大崎廃寺（2，3）の瓦と関連する瓦
→大崎廃寺も渡来系氏族が関与？



(2)備後中谷廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦(7世紀後半)



備後中谷廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦

備後中谷廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦

[瓦当裏面布目軒丸瓦]

- 軒丸瓦の裏側(瓦当裏面)に布目がみられる
- 現時点では大和藤原宮(7世紀末)の瓦が最も古い。
- 中谷廃寺瓦の文様(7世紀後半?)は藤原宮瓦より古い?:藤原宮→中谷廃寺とは考えづらい。
- 中谷廃寺瓦:もし畿内経由であるならば、畿内渡来系氏族の非主流派瓦
- 朝鮮半島では大田鶏足山城例が技法面で近い。
- 百済・新羅国境地域から備後の一寺院に技法が伝えられた可能性?

[備中と備後の瓦が語るもの]

①備中・備後の寺院・瓦に畿内中枢部(中央)と関わる瓦(畿内主流派瓦:奥山久米寺式、川原寺式、法隆寺式、藤原宮式など)
②備中・備後の寺院・瓦に畿内の渡来系氏族・寺院と関わる瓦(畿内非主流派瓦)
③備中・備後の寺院・瓦に朝鮮半島と直接的に関わる瓦
④備中栢寺廃寺→備後寺町廃寺の同笵瓦
⑤備後の水切り瓦→備中大崎廃寺の水切り瓦
⑥備後中谷廃寺と備中日畑廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦
⑦備後本郷平廃寺と備中日畑廃寺の畳表状圧痕塼

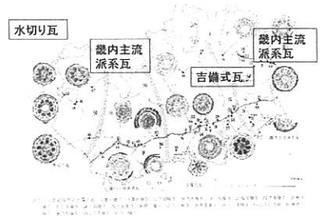


大韓民国大田広域市鶏足山城の瓦当裏面布目軒丸瓦(7世紀前半)

備中日畑廃寺



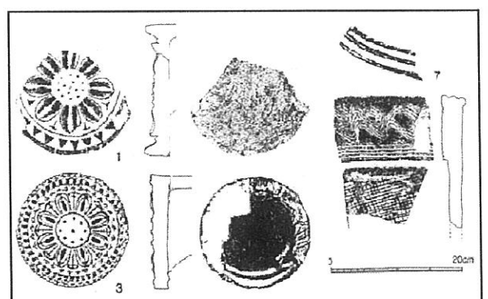
吉備の7世紀後半の瓦



＊備中・備後の瓦で何を語ることができるか

- 備中賀夜郡と備後三谿郡の豪族たちが関係?
- 賀夜郡栢寺廃寺・賀夜郡大崎廃寺も渡来系氏族の寺院?、この氏族と百済僧が関わる?
- 栢寺廃寺の僧などと三谷寺の僧が関わる?
- 都宇郡日畑廃寺と下道郡秦原廃寺に同笵の重弁蓮華文軒丸瓦。日畑廃寺も渡来系氏族関係?

＊寺院造営の技術的な面で、渡来人ネットワーク?
＊技術面に僧も関与?
＊仏教・寺院造営技術の伝播に地方→地方がある。



備中日畑廃寺の瓦当裏面布目軒丸瓦と重弁蓮華文軒丸瓦[秦原廃寺瓦と同笵](7世紀後半～末)



備中日畑廃寺と備後本郷平廃寺の畳表状圧痕塼

5. おわりに

a. 高句麗・新羅・百済の古代寺院と瓦の特徴
b. 588年、大豪族蘇我馬子の飛鳥寺造営
c. 7世紀前半～:畿内における大王家・豪族たちの寺院造営→百済大寺、山田寺、川原寺など
d. 畿内における渡来系氏族の寺院造営
  ・大和坂田寺:司馬氏、鞍作氏
  ・山背広隆寺:秦氏
  ・大和檜隈寺:東漢氏
  ・・・・・

e. 地方豪族たちの寺院造営
  白村江の戦い以後、地方豪族たちの仏教信仰
  中央から地方への仏教の伝播
  →王権・大豪族の影響(畿内主流派瓦)による寺院造営(山田寺式瓦、法隆寺式瓦など)
  →渡来系氏族などの影響(畿内非主流派瓦)による寺院造営(備中秦原廃寺?)
  →685年、天武天皇による寺院造営奨励
  →地方寺院の爆発的造営

＊吉備における古代寺院の造営

・在地豪族の造営：賞田廃寺（上道氏）、三谷寺

・渡来系氏族の造営：栢寺廃寺（賀夜氏？）、秦原廃寺（吉備の秦氏系氏族？）

→畿内経由の寺院・瓦

→畿内経由でない瓦を使用する寺院

f. 朝鮮半島（中央・地方）→日本列島の地方へ直接伝播（畿内に例がない朝鮮系瓦、瓦当裏面布目軒丸瓦？）

・朝鮮半島から日本列島へ、いろいろなレベル、多様なルートで瓦が伝播、受容

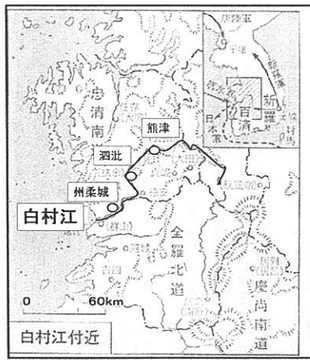
[白村江の戦い]（『三国史記』、『日本書紀』）

・義慈王（在位641～660年）は即位後、盛んに新羅を攻撃し、旧伽耶地域の多くを奪う。

・654年、金春秋が武烈王として即位。655年、高句麗は百済と連合し、新羅を攻撃。新羅は唐に救援を要請。

・659年4月、百済がしきりに国境を侵すので、唐に救援を要請。

・660年3月、唐は新羅の要請に応え、蘇定方を総司令官として百済に出兵。7月9日、金庾信率いる新羅軍は黄山原の戦いで階伯率いる百済軍を破り、蘇定方率いる唐軍と合流。7月12日、百済の王都泗沘城を囲み、7月13日、義慈王は熊津城に逃げ、子の隆が降伏し、18日、義慈王は太子と熊津城から来て、降伏。百済は滅亡。



白村江の戦い関連地位置図
（『日本書紀』中央公論社、1987）

・そのとき、残された多くの宮人たちは扶蘇山城の北の絶壁から白馬江（錦江）に身を投げたという。

・その直後から、各地で復興運動が起こり、王族鬼室福信は僧道琛とともに周留城で、日本にいた王子豊璋を迎え、旧百済領をほぼ回復する。しかし、内紛が始まった。

・日本では、斉明天皇が、7（661）年1月6日、難波から船で西征に出発。8日、大伯海で大伯皇女が生まれた。14日、伊予熟田津（にぎたつ）の石湯行宮（いわゆのかりみや）に到着。3月25日、海路で娜大津に到着、磐瀬行宮（三宅？）に入る。5月9日、朝倉橘広庭宮に移り住む。そして、7月24日、斉明天皇は朝倉宮でなくなった。

・斉明天皇が百済救援のために九州へ向かう途中、備中邇磨郷にて兵士2万人を集めた（『本朝文粋』2、「三善清行意見封事」の中の『備中国風土記』の記事）。



白村江の戦いと古代山城
（奈良文化財研究所2002）

・661年8月、中大兄皇子は将軍阿曇比羅夫らを百済救援に遣わした。9月、軍兵5000余人（軍船170艘？）を豊璋の護衛として百済の福信のもとに送った。

・天智天皇2（663）年3月、将軍上毛野君稚子らを遣わし、27000人を率いて、新羅を討たせた。6月、豊璋が福信を切る。

・663年8月17日、新羅軍は州柔にいたり、王城（州柔城・周留城）を囲む。熊津城から錦江を下ってきた劉仁軌ら唐軍は軍船170艘で白村江に戦列を構えた。

・8月27日、初戦で敗北、28日、気象をみずにむやみに攻め、大敗。多くのものが水に落ちて溺死し、船の舳先もめぐらすことができなかった。9月7日、州柔城が降伏。9月24日、佐平余自信、達率憶禮福留や一般の人々は弖禮城（てれさし：全羅南道烏城？）に至り、25日、日本に向かった。

・天智天皇3（664）年5月17日、百済の鎮将劉仁願は郭務悰らを遣わし、上表文を納めた函と献上物を進上した。

・12月12日、郭務悰らが帰国。

・是歳（664年）、対馬島・壱岐島・筑紫国などに防（さきもり）と烽（すすみ）を置き、筑紫に大堤を築いて水を貯えさせた。水城という。

・天智天皇4（655）年2月、百済の百姓男女400余人を近江国神前郡に住まわせ、3月に田を賜った。

・665年8月、達率答木（火偏）春初（とうほんしゅんそ）を派遣して、長門国に城を築かせ、達率憶禮福留と四比福夫を筑紫国に派遣して大野城と椽城（基肄城）の2城を築かせた。

＊『日本霊異記』上巻第7「亀の命を買い取って放生し、現報を得て、亀に助けられる縁」

備後三谿郡大領の先祖が三谷寺を建立

＊『日本霊異記』上巻第17「戦争での災いにあって、観音菩薩の像を信敬し、現報を得る縁」

伊予国越智郡の大領の先祖の越智直が百済を救うために派遣され、唐の捕虜となり、観音菩薩像を手に入れ、厚く信仰した。松の木を伐って舟を造り、像を安置し、誓願すると、西風が吹き、筑紫に着いた。

天皇がこれを聞いて望みを聞くと、「郡を建ててお仕えしたい」というので、これを許した。それで彼は郡を建て、寺を造り、その観音像を安置した。

[国家の仏教政策]

・『日本書紀』大化元（645）年8月癸卯条「凡自天皇至于伴造、所造之寺、不能營者、朕皆助作。今拜寺司等與寺主。巡行諸寺、験僧尼・奴婢・田畝之實、而盡顯奏。」

→国家による寺院造営の奨励策が地方に浸透？

→7世紀中頃から後半に地方で寺院が造営された。

・『日本書紀』天武天皇14（685）年3月壬申条「詔、諸国、毎家、作佛舎、乃置佛像及經、以禮拜供養。」

→この奨励策により地方寺院が爆発的に増加？

[おもな参考文献]

・大脇潔1989「七堂伽藍の建設」町田章編『古代史復元8 古代の宮殿と寺院』講談社

・岡本寛久1992「『水切り瓦』の起源と伝播の意義」近藤義郎編『吉備の考古学的研究』下、山陽新聞社

・岡山県立博物館2006『吉備の渡来文化』

・亀田修一1996「韓半島南部地域の瓦当裏面布目軒丸瓦」『碩晤尹容鎮教授退任紀念論叢』

・亀田修一2006『日韓古代瓦の研究』吉川弘文館

・葛原克人1995「備中秦氏の造寺活動について」門脇禎二編『日本古代国家の展開』下、思文閣出版

・国立扶余博物館2008『百済王興寺』

・国立扶余博物館2009『百済伽藍に込められた仏教文化』

・妹尾周三1999「広島の古瓦」脇坂光彦・小都隆編『考古学から見た地域文化』渓水社

・納谷守幸2005「軒丸瓦製作手法の変遷」『飛鳥文化財論攷』納谷守幸氏追悼論文集刊行会

・奈良国立博物館1970『飛鳥白鳳の古瓦』東京美術

・奈良文化財研究所飛鳥資料館1983『渡来人の寺』

・奈良文化財研究所2002『飛鳥・藤原京展』

・広島県立歴史民俗資料館1998『ひろしまの古代寺院　寺町廃寺と水切り瓦』

・松下正司1969「備後北部の古瓦」『考古学雑誌』55-1

・松下正司1993「水切瓦再考」『考古論集』潮見浩先生退官記念事業会

・湊哲夫・亀田修一2006『吉備の古代寺院』吉備人出版

基調講演Ⅱ （13:00～14：20）

「百済僧弘済の三谷寺をさぐる」

比治山大学 名誉教授　松下　正司

『日本霊異記』に白村江の戦いで出兵した備後国三谿郡の大領の先祖が百済僧弘済を伴って帰り，三谷寺を建立した話が載っている。仏教説話集であるため，正確な史実を語っているとは言えないが，古代の地方寺院がどのように建立されたかを読み取ることができる貴重な記録といえる。この三谷寺は，出土した瓦などから三次市向江田町の寺町廃寺ではないかと推定されている。それでは寺町廃寺はどのような寺院であったのであろうか。1979～1983にかけて行われた発掘調査の成果を整理しながら，さまざまな面から比定の可否を検証してみたい。出土した遺構や遺物からみて寺町廃寺＝三谷寺の可能性は大きいといえる。寺町廃寺は備後北部の中心的な寺院であるだけでなく，隣接の備中・出雲・安芸の国々とも関わりがあり，初期の仏教文化が地方でどのように伝播したかを研究する上で重要な遺跡である。

『日本霊異記』の説話から三谷寺を探り，古代東アジアと備後，寺町廃寺の考古学的な研究から初期仏教文化の地方伝播の様相などを考えてみたい。

１　はじめに

＊　白村江の戦いと備後の出兵

２　三谷寺＝寺町廃寺を考える

（１）　『日本霊異記』所載「百済僧弘済」の三谷寺

（２）　寺町廃寺の研究史

３　寺町廃寺の研究と発掘成果

（１）　伽藍配置と瓦積・塼積基壇

（２）　軒瓦の文様と系統

（３）　いわゆる水切り瓦の分布と課題

（４）　寺町廃寺の瓦を生産した大当瓦窯跡

（５）　唐三彩と柄香炉の出土

４　寺町廃寺と上山手廃寺の課題

（１）　伽藍配置と金堂基壇

（２）　軒瓦の様相

５　三谷寺が語る古代の備後と仏教文化の伝播

（１）　初期仏教文化の伝播

（２）　発掘が語る備後

６　おわりに

＊　史跡寺町廃寺・大当瓦窯跡の整備と保存を！

天智元年（六六二）壬戌　閏七
一・三百済の将鬼室福信に兵器・衣料・種籾等を送る（紀）
二―唐・新羅軍、高句麗を討つ、高句麗、日本に救援を求める、唐・新羅、征討中止（紀）
三―阿曇比羅夫、余豊璋を福信のもとに送り、百済の王位につかせる（紀）

天智二年（六六三）癸亥
二―鬼室福信、唐の俘虜を献じる（紀）
三―上毛野君稚子・阿倍比羅夫らに命じ兵二万七千を率いて新羅征討に向かわせる[1]（紀）
六―百済の王豊璋、鬼室福信を殺す[2]（紀）
八・三七、二日本・百済軍、唐・新羅軍と白江（白村江）に戦い惨敗、百済滅び、豊璋は高句麗に逃亡（紀・旧唐書・三国史記）
九―日本軍、百済の遺民とともに帰国（紀）

天智三年（六六四）甲子
二・九大海人皇子、甲子の改革令を宣布、新冠位二十六階を制定、氏上を定め、民部（部曲）・家部を諸氏に与える[4]（紀）
五―二唐の百済鎮将劉仁願、郭務悰らを遣わし上表貢献、朝廷は入京を許さず（紀・善隣国宝記所引海外国記）
三―唐使を筑紫より返す（紀・善隣国宝記所引海外国記）
この年　対馬・壱岐・筑紫等に防人・烽を置き、筑紫大宰府防衛のため前面に大堤を築き水を貯えて水城という[5]（紀）
没　五―大臣蘇我連子[7]

天智四年（六六五）乙丑　閏三
二―百済の百姓男女四百余人を近江国神前郡に移す（紀）
八―百済の遺臣に長門国の城（山口県下関市）・筑紫国の大野城・椽（基肄）城を築かせる（紀）
九・三唐使劉徳高・郭務悰ら来朝、入京を許される（紀）
三―唐使、帰国（紀）
この年　守君大石・坂合部連石積らを唐に派遣＊第五次遣唐使[6]（紀）
没　二・三五間人皇太后（孝徳皇后）　二・三僧貞恵（三）（鎌足長子）

西暦	日本	中国・朝鮮
六一八		唐王朝成立、高祖（李淵）即位。
六二六		唐太宗即位。
六二九		唐、突厥の頡利可汗を破る。
六三〇	遣唐使派遣。	
六四二	皇極天皇（宝皇女）即位。	高句麗蓋蘇文、王建武を殺害。宝蔵を擁立。
六四三	山背大兄王、蘇我入鹿によって滅ぼされる。	百済、新羅の大耶城以下四十余城を占領。
六四四	蘇我入鹿らクーデターにより打倒される。百済、任那の調を貢納。	太宗『征高麗の詔』を発布。
六四五		唐の高句麗遠征軍出発。
六四八	斉明天皇即位。	唐の高句麗遠征失敗。
六五四		新羅、眩蠱の乱。
六五五	斉明天皇即位。	
六六〇		唐高宗、百済を攻撃、泗沘城陥落。高句麗遠征再開。
六六二	百済派遣軍出発、中大兄執政。	
六六三	日本軍、唐・新羅軍に白村江で敗北。	高句麗、唐・新羅連合軍によって滅亡。
六六五	水城をきづく。	新羅、対唐戦争を開始。
六六七	近江大津宮へ遷都。	
六六八		新羅、朝鮮半島を統一。
六六九		
六七二	壬申の乱。	
六七六		

＊　黛弘道編『年表 日本歴史』1（1980　筑摩書房）

＊　鬼頭清明『白村江』（1981　教育社）

＊　森公章『「白村江」以後』（1998 講談社）

百済の役の募兵地域と出兵人物（備考欄に＊を付けたものは参考記事）

国名	郡名	出典	人名	備考
駿河		斉明7・是歳条		船をつくらせる
甲斐	山梨	古屋家家譜	大伴山前連淵守	少領、唐で病没
常陸	石城	風土記香島郡条		＊「淡海之世」に石城でつくった船が香島郡に漂着
陸奥	信太	慶雲4・5・癸亥条	生王五百足	四十余年後に帰国
但馬	朝来	栗鹿大神元記	神部直根閇	帰国後、大領に
播磨		風土記讃容郡条	国宰道守臣	＊官船をつくる
備中	下道	風土記逸文		遠征郷で軍士2万人を徴発
備後	三谷	日本霊異記	三谷郡大領の先祖	百済の僧侶を伴って帰国
讃岐	那賀	慶雲4・5・癸亥条	錦部刀良	四十余年後に帰国
伊予	風速	持統10・4・戊戌条	物部薬	帰国・追大弐授与
	越智	日本霊異記	越智郡大領の先祖	帰国後、立評、小市国造か
筑前	早良	天武13・12・癸亥条	筑紫三宅連得許	帰国
筑後	山門	慶雲4・5・癸亥条	許勢部形見	四十余年後に帰国
	上妻	持統4・9・丁酉条 持統4・10・乙丑条	大伴部博麻	軍丁。30年後に帰国
		天智10・11・癸卯条	筑紫君薩夜麻	帰国。筑紫国造か
豊前	宇佐	天智10・11・癸卯条	韓嶋勝娑婆	帰国。宇佐の有力豪族か
肥後	皮石	持統10・4・戊戌条	壬生諸石	帰国・追大弐授与
不詳		天智10・11・癸卯条	布師首磐	帰国。越中国射水郡、土佐国安芸郡に布師郷がある
		天武13・12・癸亥条	猪使連子首	帰国
		持統4・10・乙丑条	土師連富杼 氷連老 弓削連元宝児	天智10・11・癸卯条で帰国か

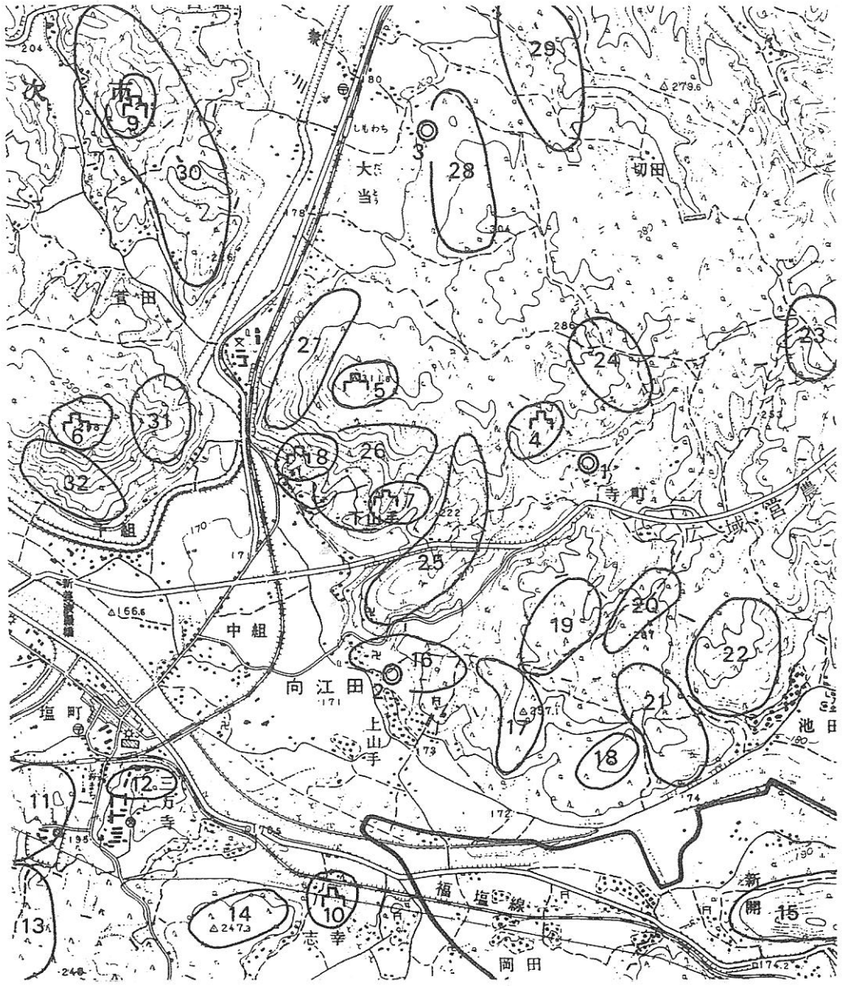
『日本霊異記』上巻（日本古典文学大系　岩波書店刊）

『今昔物語集』巻第十九（日本古典文学大系　岩波書店刊）

安芸・備後の初期寺院跡等一覧表

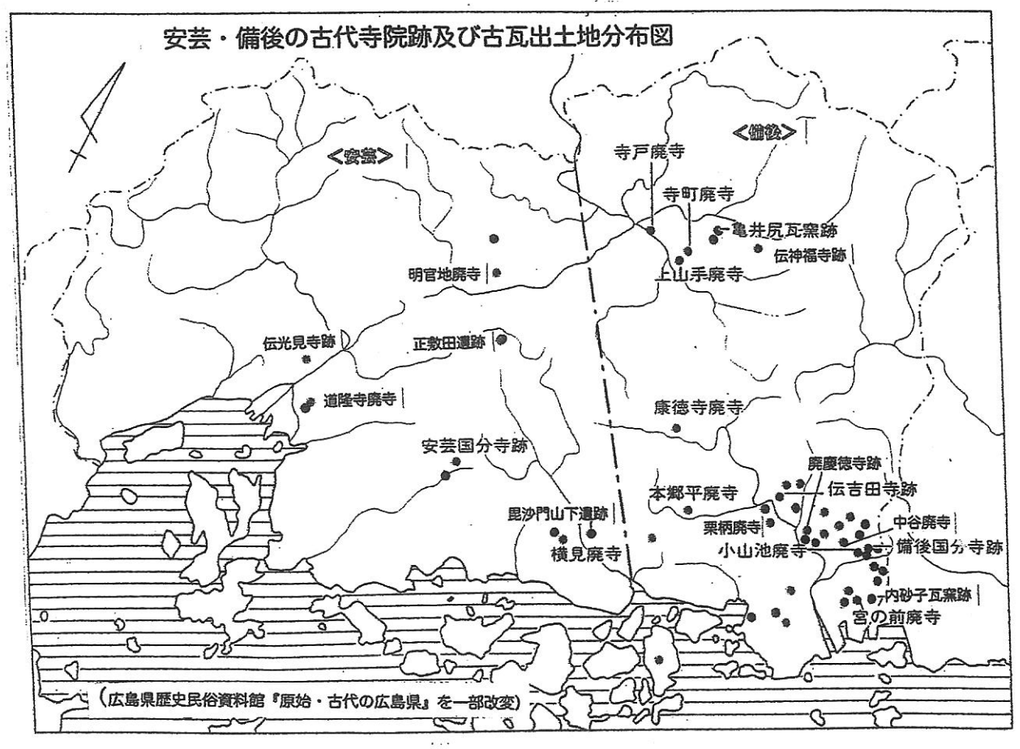
国	区分	遺跡名	旧郡名	所在地	時代 飛鳥	白鳳	奈良	平安
安芸	東部	昆沙門山下遺跡	沼田	豊田郡本郷町昆沙門山南麓				
		横見廃寺	沼田	豊田郡本郷町下北方				
	西部	＜道隆寺廃寺＞	安芸	安芸郡府中町みくまり3丁目				
		＜伝光見寺跡＞	安芸	広島市安佐南区祇園町				
	北部	明官地廃寺	高宮	高田郡吉田町中馬				
		正敷田遺跡	高田	高田郡向原町長田				
備後	南部	（内砂子遺跡）	安那	深安郡神辺町上竹田				
		小山池廃寺	安那	深安郡神辺町西中条				
		中谷廃寺	安那	深安郡神辺町道上				
		宮の前廃寺	安那（深津）	福山市蔵王町宮の前				
		＜廃慶徳寺跡＞	品治	芦名郡新市町戸手				
		栗柄廃寺	葦田	府中市栗柄町栗柄				
		伝吉田寺跡	葦田	府中市元町				
		本郷平廃寺	御調	御調郡御調町丸門田				
	北部	康徳寺廃寺	世羅	世羅郡世羅町寺町				
		上山手廃寺	三谷	三次市向江田町上山手				
		寺町廃寺	三谷	三次市向江田町寺町				
		寺戸廃寺	三次	三次市三次町寺戸				
		（亀井尻窯跡）	恵蘇	庄原市上原町亀井尻				
		伝神福寺跡	三上	庄原市宮内町隠地				

＊　松下正司「芸備の初期仏教文化」（1983「芸備地方史研究」145）



寺町廃寺周辺遺跡分布図（2.5万分の1）

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『備後寺町廃寺』
－推定三谷寺跡第1次発掘調査概報－（三次市教育委員会刊　1980-3）



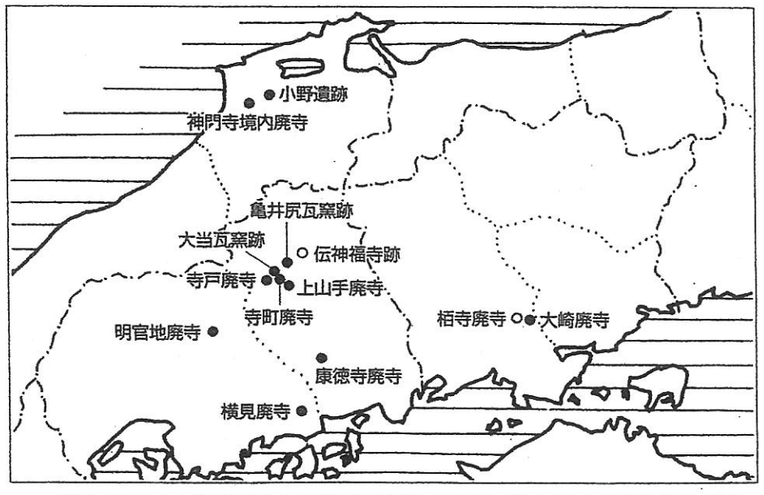
備後国郡・郷分布図



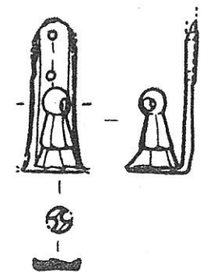
＊　後藤陽一『広島県の歴史』（1972　山川出版）

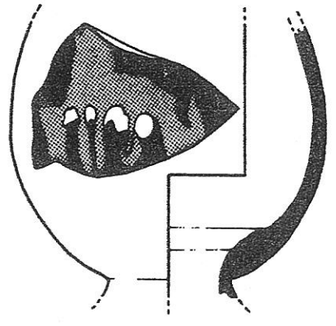
1　寺町廃寺
2　上山手廃寺
3　大当瓦窯跡
4　寺町城跡
5　茶臼山城跡
6　天良山城跡
7　野稲城跡
8　小城城跡
9　南山城跡
10　新宮山城跡
11　勇免古墳群
12　三万寺古墳群
13　萱草古墳群
14　郡古墳群

広島県立歴史民俗資料館『考古企画展・寺町廃寺と水切り瓦』1998



水切り瓦の出土古代寺院または同笵瓦など関連する資料の出土する古代寺院・遺跡位置図
＊●は水切り瓦が出土している寺院，○は寺町廃寺と同笵の瓦や似た文様の瓦が出土した寺院

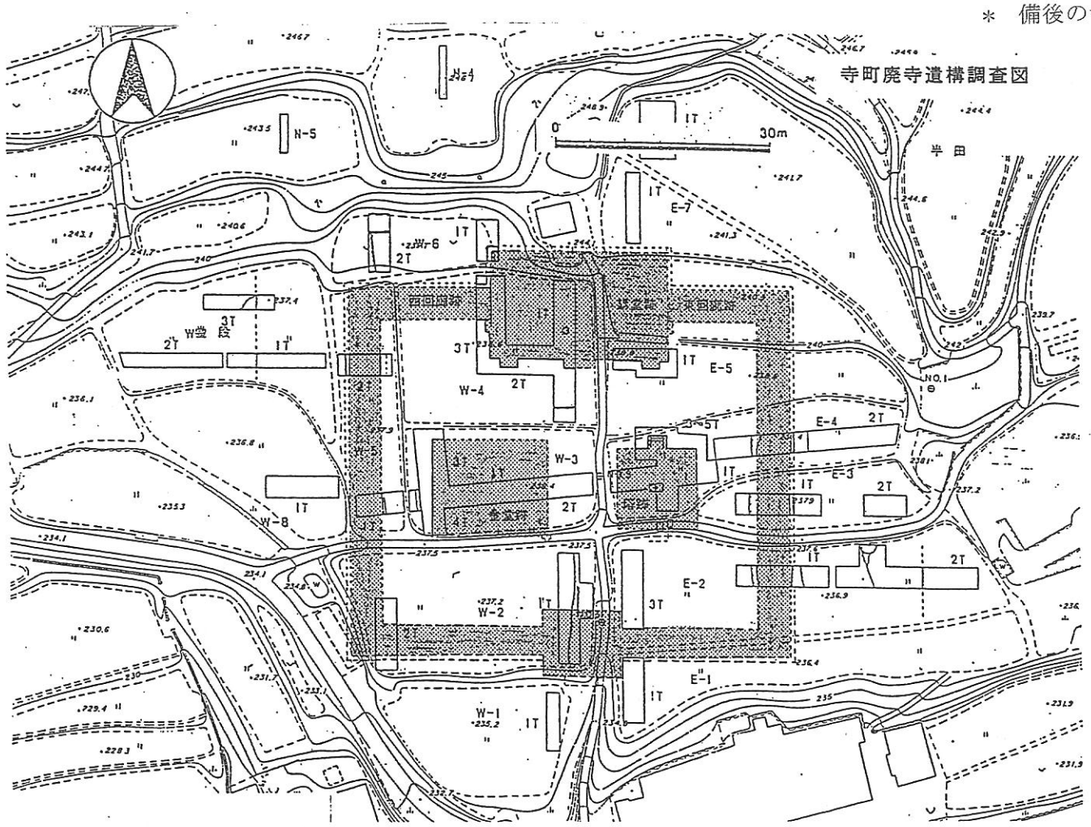


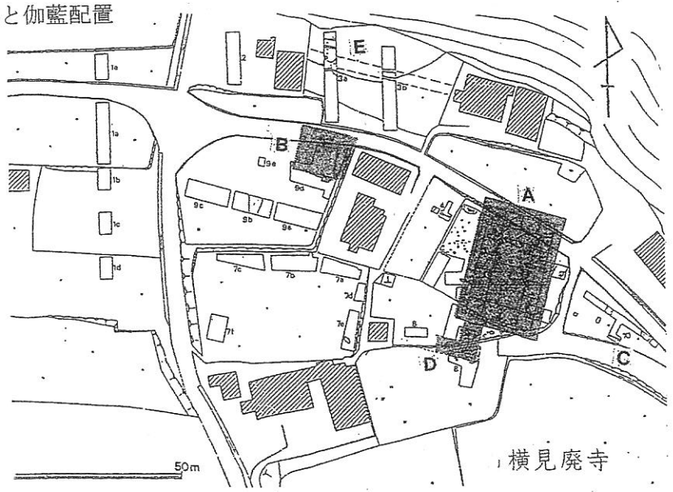


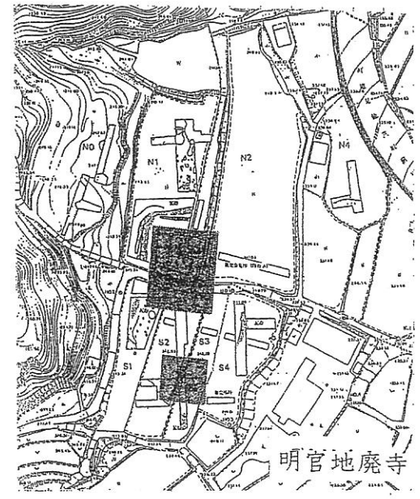
寺町廃寺出土　↑柄香炉（瓶鎮）
↓唐三彩（瓶）

＊　備後の寺院跡と伽藍配置

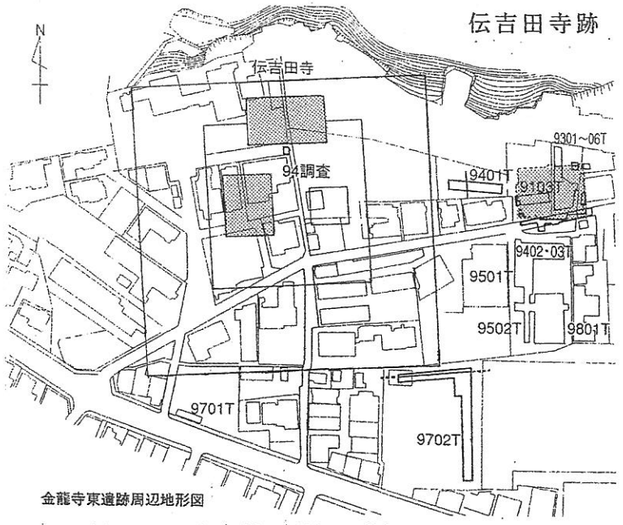
寺町廃寺遺構調査図



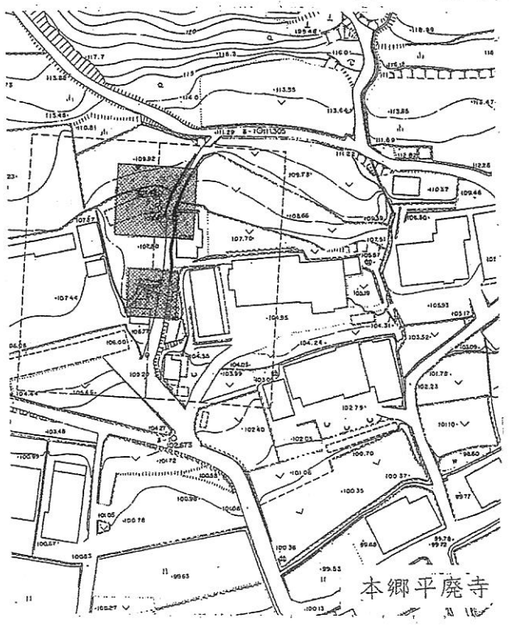




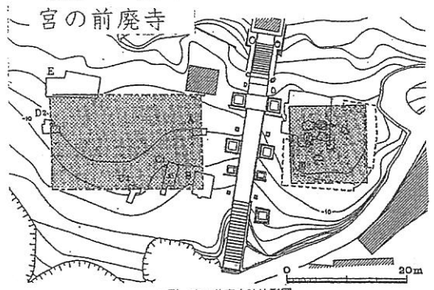
伝吉田寺跡



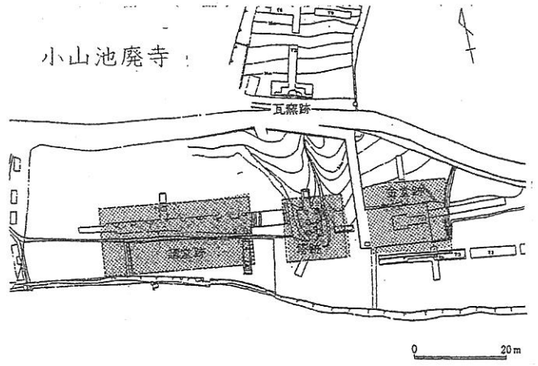
金龍寺東遺跡周辺地形図



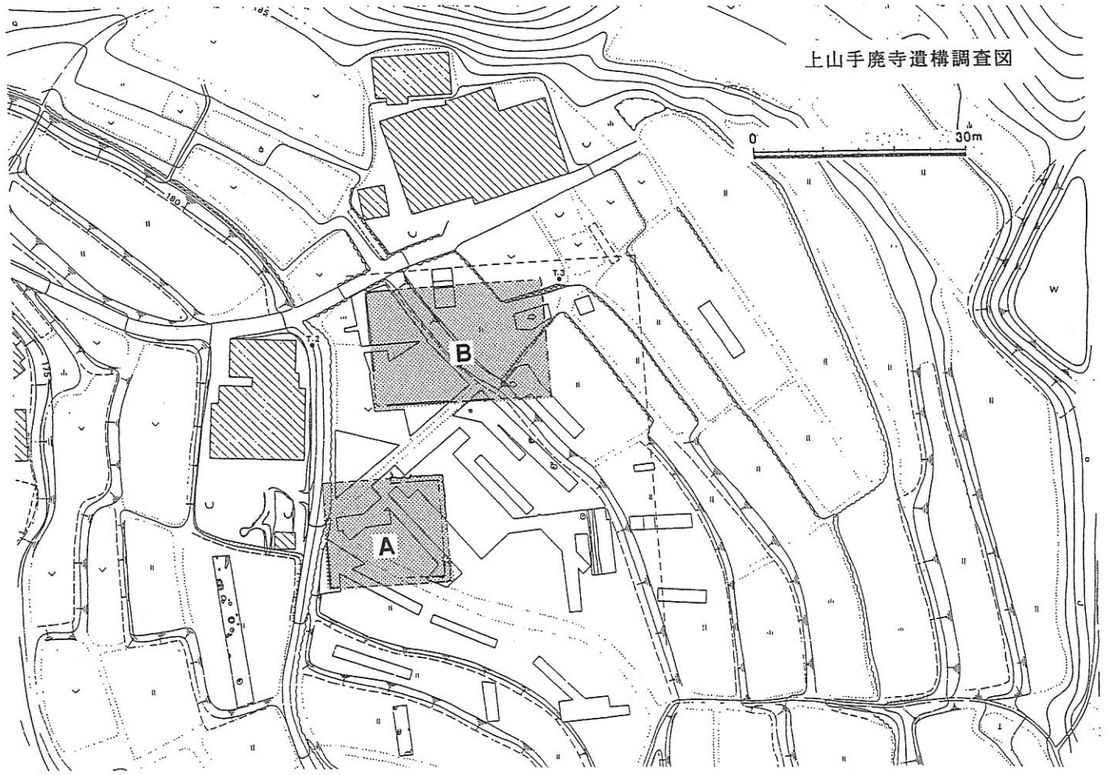
宮の前廃寺

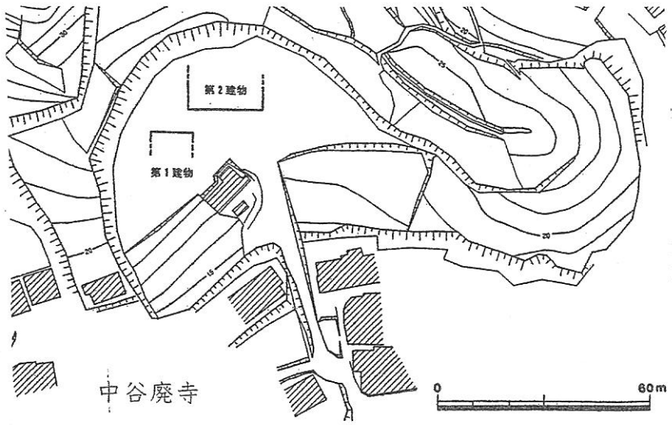


小山池廃寺

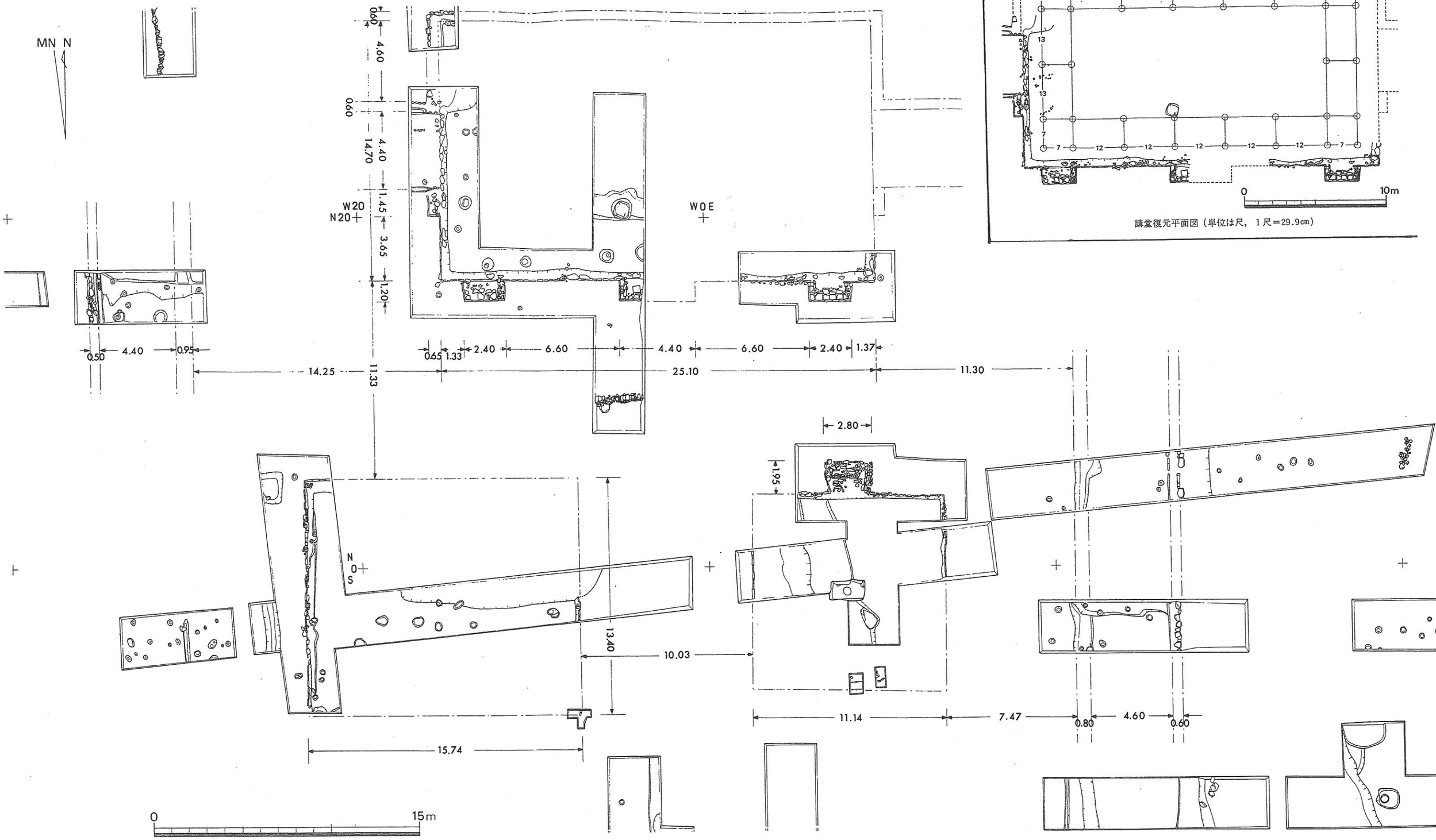


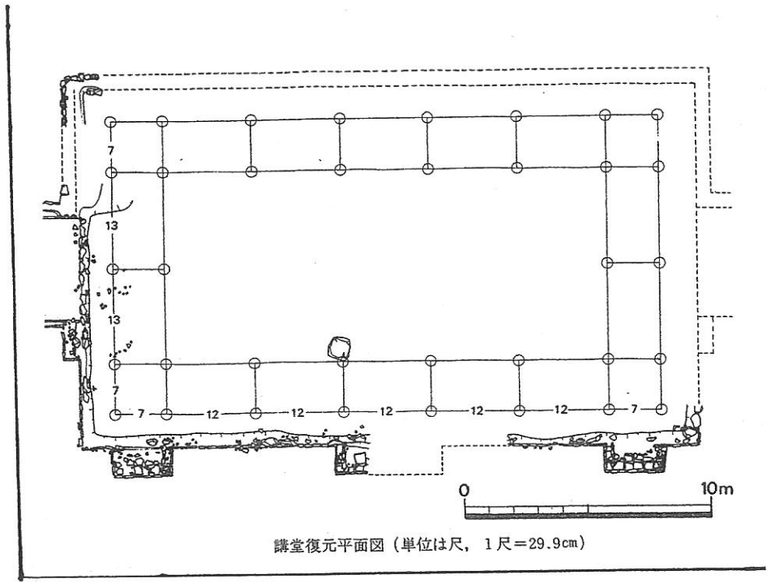
上山手廃寺遺構調査図





＊　各寺院跡調査概報より





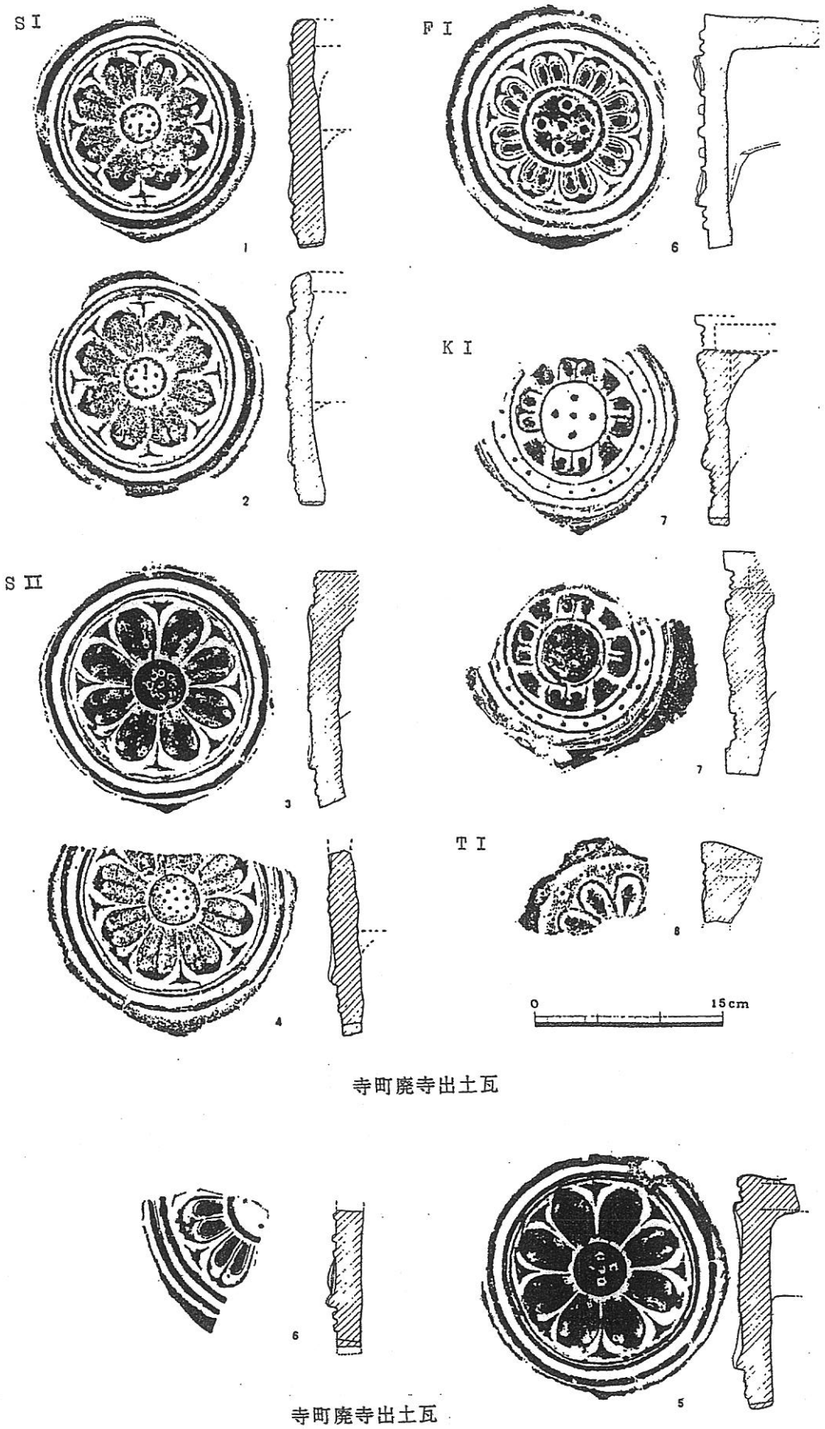
講堂復元平面図（単位は尺，１尺＝29.9cm）

寺町廃寺　主要遺構図

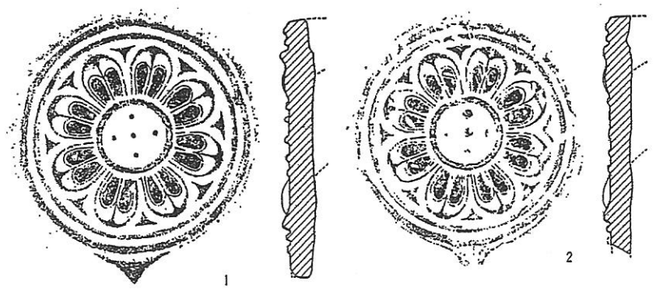
軒丸瓦分類計測表

型式	瓦当面 直径	内区 中房 径	中房 形	中房 蓮子数	内区 弁区径	内区 弁幅	内区 弁数	外区 幅	外区 高	外区 文様	水切りの有無	全長	第1次調査 主な出土地	個体数	第2次調査 主な出土地	個体数	第3次調査 主な出土地	個体数	計	%
SIa	15.8	3.4	凸	1+7	11.6	3.3	S8	2.2	0.5	2圏	有	—	E4区2T…2 金堂東…3	5	講堂南…7 講堂東…1 E2区1T…1	9	塔北…9 (うち階段内2) E3区1T…3	12	26	19.7
SIIa	18.4	4.1	凸	1+8	13.6	3.0	S8	2.4	0.2	2圏	有		塔東…3 塔西…1 金堂東…3 金堂西…5 E4区2T…13 W5区1T…1	26	講堂南…9 講堂西…3 講堂北西…2 W2区1T…2	16	塔北…9 (うち階段内1) 塔南…1 E3区1T…6 E8区1T…1 W7区3T…2	19	61	46.2
SIIa′	18.4	4.1	凸	1+8	13.4	3.0	S8	2.5	0.2	2圏	有	—	塔西…1 金堂東…1 金堂西…1 E4区2T…3	6	講堂南…4	4		0	10	7.5
SIIb	18.4	4.2	凸	1+4	13.4	3.1	S8	2.5	0.2	2圏	有	—		0	講堂南…4	1		0	1	0.8
FIa	—	—	凸圏	1+4	—	3.5	F8	2.5	0.4	2圏	有	—		0	講堂北西…1	1		0	1	0.8
FIb	18.2	6.0	凸圏	1+4	12.2	3.0	F8	3.0	0.4	2圏	有	—	金堂西…1 W5区1T…1	2	講堂西…1	1	E3区1T…2 W10区堂南…1	3	6	4.5
FIc	17.4	5.8	凸圏	1+4	10.8	2.6	F8	3.3	0.2	2圏	—	—	E4区2T…1	1		0	E3区1T…1	1	2	1.5
KIa (KIa′を含む)	16.8	5.6	凸圏	1+4	9.6	3.6	F4	3.6	0.8	珠20	有	—	E4区2T…1	1	講堂南…1 E2区1T…1	2	塔北基壇外…1 E3区1T…1	2	5	3.8
TIa	(16.0)	—	—	+	(10.0)	2.2	S4	3.0	0.4	珠16	—	—	E4区2T…1	1		0		0	1	0.8
不明														8		4		7	19	14.4
計							T							50		38		44	132	100.0

(S素弁，F複弁，T単弁，KIa′の中房は凸)



寺町廃寺出土瓦



上山手廃寺出土瓦



大当瓦窯跡出土瓦

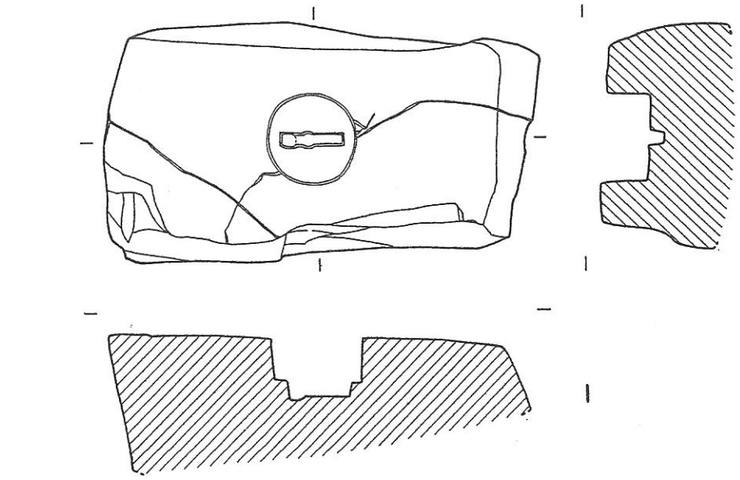
寺町廃寺出土瓦

番号	直径	内区 中房径	内区 弁区径	内区 弁幅	外区 幅	外区 高	水切長	圏線外縁の幅	焼成 胎土 色調	裏面整調	筒瓦との接合状態	備考
1	18.0	5.8	14.4	4.0	1.6	0.3	2.0	0.1 ~0.2	やや軟質 やや軟淡褐色	指ナデ 指押え	縁辺に木口工具により刻み目。若干の凹み，粘土補強	3と同范か。水切りは内反り三角形
2	17.2	5.7	13.7	4.0	1.5	0.3		0.1 ~0.2	良好 堅緻 灰色	指ナデ 指押え	縁辺に木口工具による刻み目。若干の凹み，粘土補強	范型の傷が著しい。

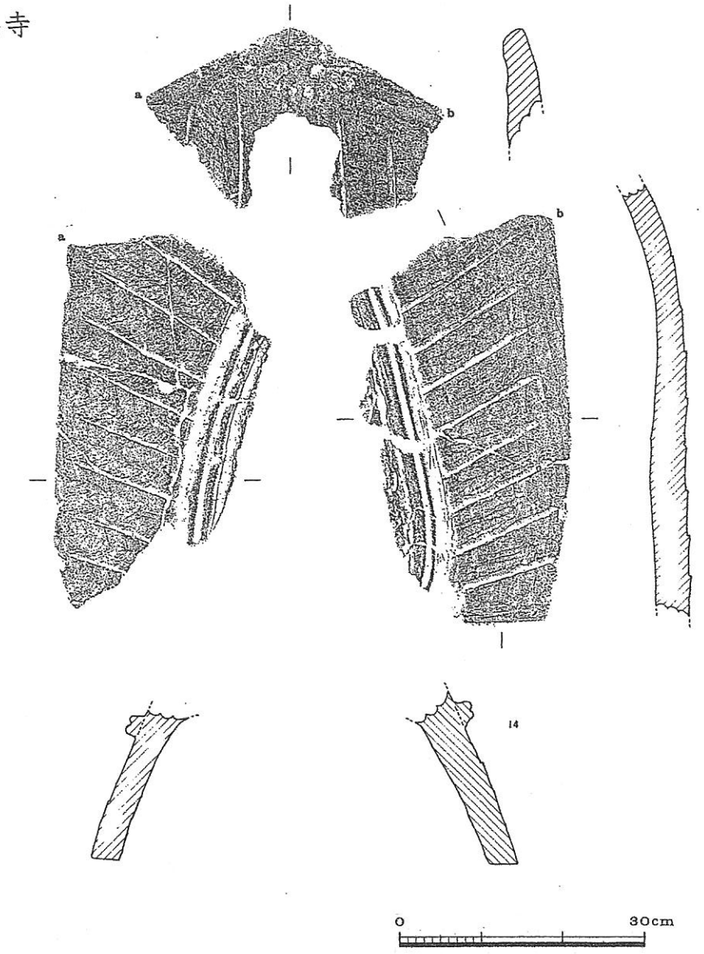
上山手廃寺

広島県教育委員会編『上山手廃寺発掘調査概報』
〃 (1) (広島県教育委員会刊 1979・3)
〃 (2) (〃 1980・3)
〃 (3) (〃 1981・3)

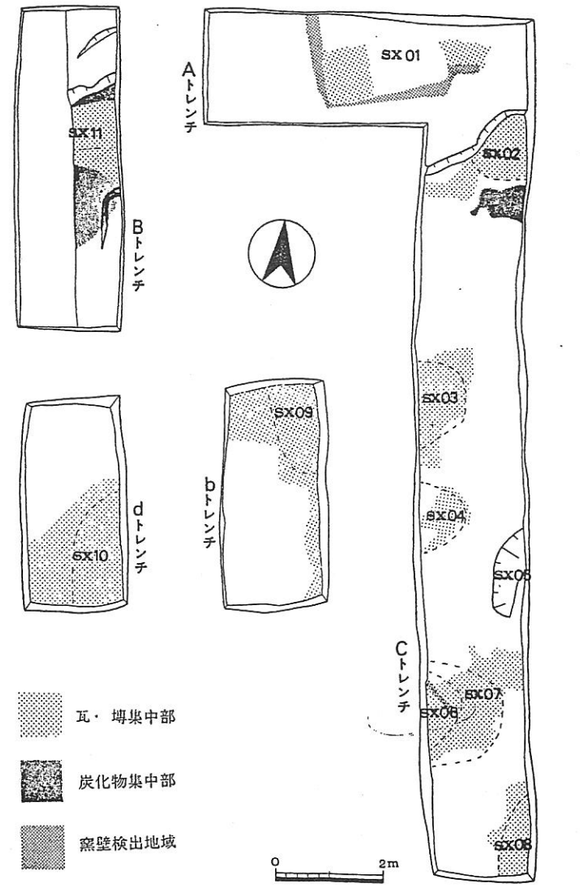
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『備後寺町廃寺』
－推定三谷寺跡第1次発掘調査概報－ (三次市教育委員会刊 1980・3)
〃 2 (〃 1981・3)
〃 3 (〃 1982・3)
〃 4 (〃 1983・3)



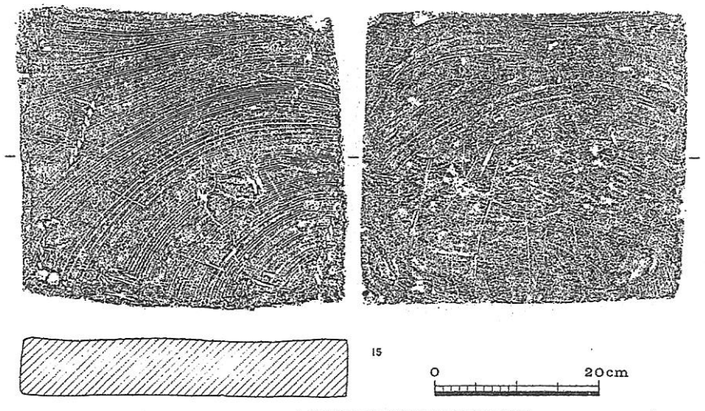
礎石実測図



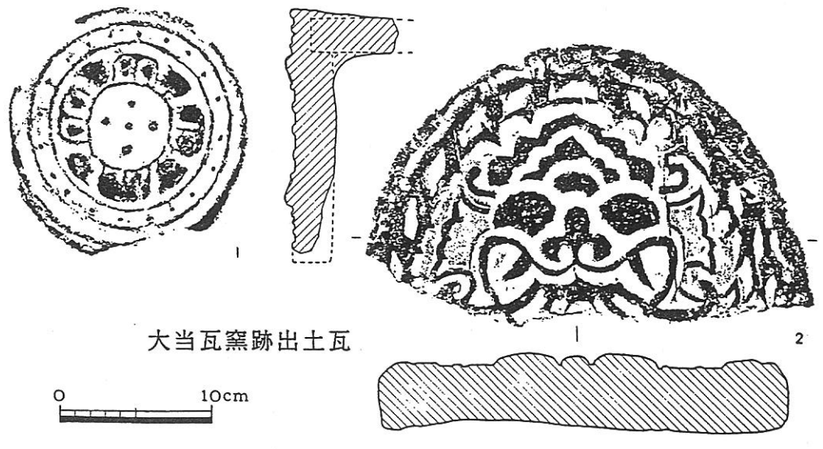
W３区２Ｔ出土瓦尾拓影実測図



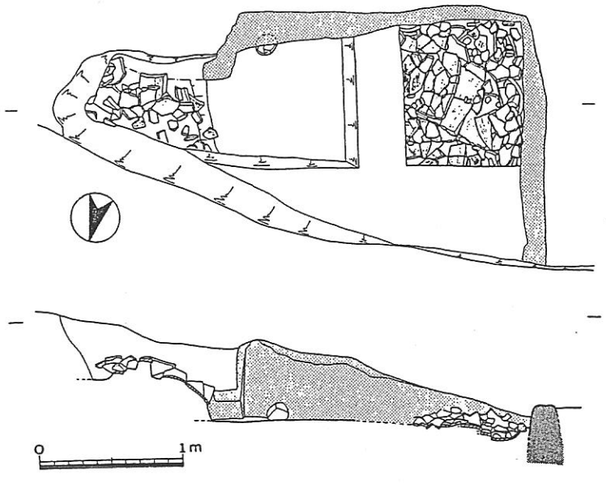
大当瓦窯跡調査図



金堂基壇西辺使用の塼拓影実測図



大当瓦窯跡出土瓦



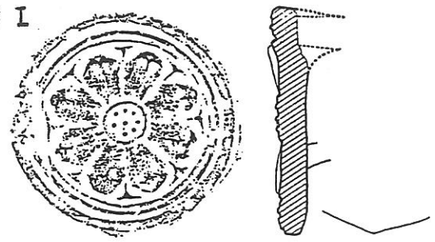
大当瓦窯跡ＳＸ０１実測図

いわゆる水切瓦　編年表

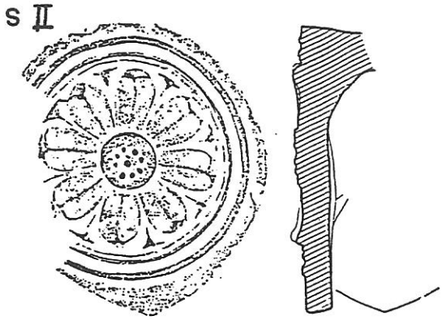
＊　松下正司「水切瓦再考」（1993　『考古論集』）

政治史	美術史	遺跡	備後国 三谿郡 寺町廃寺	備後国 三谿郡 大当瓦窯跡	備後国 三谿郡 上山手廃寺	備後国 三次郡 寺戸廃寺	備後国 恵蘇郡 亀井尻瓦窯跡	備後国 三上郡 伝神福寺跡	備後国 世羅郡 康徳寺廃寺	安芸国 沼田郡 横見廃寺	安芸国 高宮郡 明官地廃寺	備中国 賀夜郡 大崎廃寺	備中国 賀夜郡 栢寺廃寺	出雲国 神門郡 神門寺廃寺
飛鳥時代	白鳳（奈良前期）		SI, SII, FIA		FIA	FI		SII, FII, FI	FIA	F	T	F	SI, SI	FII
奈良時代	天平（奈良後期）	710	FIB, FIC	FIB		FII	FI		FIB					FI
平安時代	（弘仁・貞観・藤原）	794	K	K										

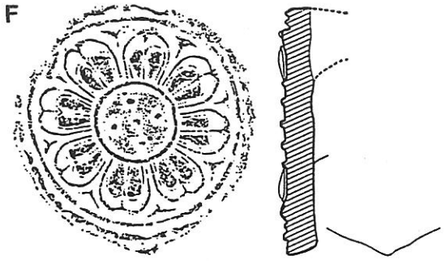
SI



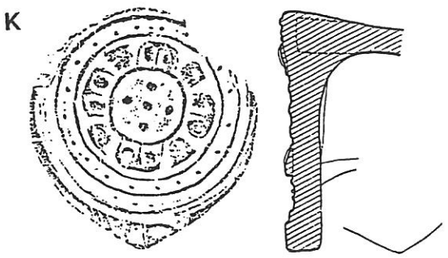
SII



F



K



	遺跡名	所在地	旧国郡名	水切瓦
1	寺町廃寺	広島県三次市向江田町寺町	備後国三谷郡	▽
2	上山手廃寺	広島県三次市向江田町上山手	備後国三谷郡	▽
3	寺戸廃寺	広島県三次市三次町寺戸	備後国三次郡	▽
4	伝神福寺跡	広島県庄原市宮内町隠地	備後国三上郡	?
5	康徳寺廃寺	広島県世羅郡世羅町寺町	備後国世羅郡	▽
6	大当瓦窯跡	広島県三次市和知町大鳴	備後国三谷郡	▽
7	亀井尻瓦窯跡	広島県庄原市上原町亀井尻	備後国恵蘇郡	▽
8	横見廃寺	広島県豊田郡本郷町下北方	安芸国沼田郡	▽
9	明官地廃寺	広島県高田郡吉田町中馬	安芸国高宮郡	▽
10	大崎廃寺	岡山県岡山市大崎西の前	備中国加夜郡	▽
11	栢寺廃寺	岡山県総社市南溝手栢寺元	備中国賀夜郡	?
12	神門寺廃寺	島根県出雲市塩冶町	出雲国神門郡	▽

シンポジウム（14:40～15：50）

「古代の東アジアとひろしま - 白村江の戦いと寺町廃寺 - 」

コーディネーター　　広島大学大学院 教授　古瀬　清秀さん

パネラー　　岡山理科大学大学院 教授　亀田　修一さん

パネラー　　比治山大学 名誉教授　松下　正司さん

パネラー　（財）広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室長　伊藤　実

平成23年度中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る

備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会Ⅴ

―ハイライト①・集落と古墳―

備北地域では平成17年度から，中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査を行っています。これまで，多くの古墳をはじめ，旧石器・縄文～古代の多彩な遺構・遺物が見つかり，この地域の歴史像の解明に重要な手がかりをもたらしています。

今回は，これまで行った発掘調査のなかから，特に注目された古墳や集落跡４か所について，その調査成果を調査担当者がスライドを使って報告します。

また，写真パネルや出土遺物も一部展示します。









●日　時

平成24年**2月25日**㊏ 14時～16時

●場　所

広島県立歴史民俗資料館 研修室

（三次市小田幸町122　広島県立みよし風土記の丘）

参加費無料，事前申込不要

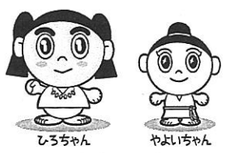
（資料館展示の観覧には別途入場料が必要です）

●報告する遺跡

No.	名　称	時代・種別
1	宮の本第24号古墳	中期，竪穴式石室，箱式石棺
2	札場古墳	後期，横穴式石室
3	曲第2号古墳	中期，組合式木棺
4	和知白鳥遺跡	中期～後期，集落跡

●その他

パネル展示のほか，出土遺物の一部を展示します。（無料）



みよし風土記の丘

主催・お問い合わせ先

財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　082-295-5751

広島県立歴史民俗資料館　0824-66-2881



■平成 23 年度新刊分

区　分		代金（円）
活動報告　第 1 集	平成 22 年度ひろしまの遺跡を語る　古墳時代の暮らしと心　記録集	500

■平成 22 年度新刊分

区　分		所在地	代金（円）
第 38 集	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(15) 和知白鳥遺跡 I	三次市	1,000
第 37 集	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(14) 上陣遺跡	三次市	600
第 36 集	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(13) 瀬戸越南古墳	三次市	800
第 35 集	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(12) 茶臼古墳	三次市	600

■既刊分

区　分		所在地	代金（円）
第 34 集	浅谷山西古墳・浅谷山1号遺跡・小深遺跡	庄原市	900
第 33 集	大番奥池第1～3・7号古墳	三次市	700
第 32 集	権現第1～3号古墳	三次市	800
第 31 集	曽川1号遺跡（L・M地区）	尾道市	1,700
第 30 集	向江田中山遺跡	三次市	800
第 29 集	城平山城跡	呉市	300
第 28 集	金井原遺跡	世羅町	1,300
第 27 集	北野山遺跡	三次市	500
第 26 集	札場古墳・大平遺跡・後山大平古墳	三次市	600
第 25 集	近森遺跡	世羅町	600
第 24 集	曽川1号遺跡（K地区）	尾道市	500
第 23 集	曽川1号遺跡（G～J地区）	尾道市	1,000
第 21 集	原田岡山第2号古墳	東広島市	400
第 20 集	布掛遺跡・大槙神遺跡	庄原市	1,100
第 19 集	池ノ奥古墳	世羅町	500
第 18 集	曽川1号遺跡（A～D 地区）	尾道市	800
第 17 集	槇山古墓	世羅町	600
第 16 集	みたち第1号古墳	三原市	400

お申込み・お問合せ　〒733-0036　広島市西区観音新町四丁目 8 番 49 号

財団法人広島県教育事業団事務局　埋蔵文化財調査室　TEL:082-295-5751　FAX:082-291-3951